

秋 田 県 立 博 物 館

年

報

令和 8 年 度

秋田県立博物館



は じ め に

秋田県立博物館は1975(昭和50)年5月、人文4部門と自然2部門を展示した本館と、分館「重要文化財・旧奈良家住宅」からなる総合博物館として、広く県民の学術および文化の発展に寄与することを目的に、ここ秋田市北部の小泉潟公園の一角に誕生しました。以来、1996(平成8)年4月には、江戸時代後期の紀行家である菅江真澄を紹介した「菅江真澄資料センター」と、近現代の秋田ゆかりの人物を紹介した「秋田の先覚記念室」の2つの展示室を新設し8部門に増やしました。その後も大規模な改修工事を行い、展示スペースを増やし、参加体験型展示室「わくわくたんけん室」を加え、2004(平成16)年4月にはリニューアルオープンをし、現在に至っています。

2023(令和5)年の改正博物館法施行により、博物館が担うべき使命や期待は一層多様化しています。また、当館が開館した1975年当時に約126万人を数えた秋田県の人口は、2026(令和8)年3月末には約87万人にまで減少しました。このような急激な社会構造の変化や諸課題に対応するため、地域社会への貢献、国外からの来館者への施設・体制の整備、デジタル技術の利活用を掲げた「中期ビジョンー令和7年度から5カ年ー」を策定いたしました。

50周年という半世紀の節目を終え、本年度より当館は新たな一步を踏み出します。これまで継承してきました理念を大切にしながらも、時代の要請に柔軟に応え、当館が保有する有形・無形の財産をより多くの皆様へ公開してまいります。

ここでの出会いが、新たな感動や気づき、そして学びの楽しさへとつながり、これからの地域や社会の発展に寄与できるよう努めてまいります。2026(令和8)年度も、変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

秋田県立博物館

館長 藤 原 淳

目次

■ 施設の概要

I 博物館のあゆみ	4
II 施設・設備	5
III 展示室	9
IV 組織	13
V 職員	14

■ 事業の概要

I 令和8年度博物館運営方針	16
II 令和8年度博物館事業計画	16
1 重点目標	16
2 活動計画	17
III 令和7年度事業報告	20
1 調査研究活動	20
2 資料収集管理活動	23
3 展示活動	25
4 教育普及活動	31
5 広報出版活動	35
6 学習振興活動	37
7 館外活動	39
8 令和7年度のあゆみ	40

■ 資料

I 収蔵資料の概要	42
II 歴代館長、特別展等一覧	43
III 秋田県立博物館条例	44
IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋）	45
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）	45
V 入館者に関する資料	46



施設の概要

I 博物館のあゆみ

- 昭和42年 1月 第2次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案
12月 県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
- 47年 3月 県立博物館設立構想完成
- 49年 11月 定礎式
- 50年 3月 秋田県立博物館条例制定
5月 開館式（5日）
一般公開（10日）
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
- 7月 登録博物館となる（登録日50.7.1）
- 53年 10月 皇太子皇太子妃両殿下行啓
- 54年 1月 生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
- 55年 5月 秋田県博物館等連絡協議会発足
- 59年 9月 開館10周年記念式典
- 63年 9月 本館屋根防水工事完了
- 平成3年 8月 秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催
9月 分館旧奈良家住宅屋根修理着工
- 4年 11月 分館旧奈良家住宅屋根修理完成
- 5年 7月 増築工事着工
- 7年 8月 増築工事完成
- 8年 4月 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
- 9年 8月 ニューミュージアムプラン（NMP）21検討委員会設置
- 11年 4月 入館料が無料となる
- 14年 4月 ニューミュージアムプラン（NMP）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
- 15年 10月 改修建築・設備工事完成
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
- 16年 3月 展示工事完成
4月 リニューアルオープン
- 17年 12月 開館30周年記念式典
- 18年 3月 旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
- 20年 7月 クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される
- 27年 9月 開館40周年記念式典
- 29年 7月 皇太子皇太子妃両殿下行啓
- 令和4年 3月 館内Wi-Fi化工事完了
5年 2月 ウェブサイトリニューアル
7年 9月 開館50周年記念式典

Ⅱ 施 設 ・ 設 備

設 置 場 所	秋田市金足鳩崎字後山52	(株)中田建築設備
敷 地 面 積	15,000.32㎡	(株)ユアテック秋田支社
建 築 面 積	6,237.93㎡	サン電気工業(株)
建築延面積	11,952.81㎡	展示製作実施設計 (株)丹青社
建 築 構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造り 地上3階、塔屋2階建	展示製作委託施工 (株)乃村工藝社

【建築工事】

建 築 費	2,058,131千円 (含調査事務費・展示資料費)
着 工	昭和48年7月
竣 工	昭和49年11月
開 館	昭和50年5月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)三晃空調 東北電気工事(株) 展示設計施工 (株)丹青社

【増築工事】

建 築 費	1,578,174千円 (含調査事務費・展示資料費)
着 工	平成6年7月
完 成	平成8年2月
増設開館	平成8年4月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)ユアテック 日の出施設工業(株) (株)三和施設 日本オーチスエレベータ(株) 展示設計施工 (株)アートシステム

【NMP事業】

事 業 費	2,087,400千円 {総事業費(含調査事務費、 展示製作委託費)}
着 工	平成14年3月
完 成	平成16年3月
リニューアル開館	平成16年4月29日
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 (株)林工務店 (株)清水組 J V 設備施工 大民施設工業(株) (株)あたご J V

設 備

〈電気設備〉

- (1) 受電電圧 3φ6,600V 50HZ
一般照明用 450KVA (150×3)
一般動力用 550KVA (300×1)
(250×1)
非常照明用 50KVA
非常動力用 150KVA
- (2) 発電機設備 発電電圧 3φ6,600V 50HZ 200KVA
エンジン ディーゼル 230KVA
- (3) 蓄電池設備 108V 200AH 10HR 54セル
- (4) その他幹線・動力・電灯用設備一式

〈警戒(報)設備〉

- (1) レーダー警報設備(展示室・収納庫)
方式、パッシブインフラレッド方式
レーダー検出 10ヶ所
ドアスイッチ 10ヶ所
- (2) I・T・V監視設備
監視用カメラ 21台
(展示室14台 収蔵庫4台
1Fホール1台 外2台)
- (3) 一般・非常放送設備
ロッカ型防災アンプ 容量 200W
非常時警報音 自動吹鳴式(サイレン)

〈空調換気設備〉

- (1) 冷凍機設備(備熱水槽方式 容量780m³)
直燃吸収式冷温水機 冷却能力
1,220KW 加熱能力 1,200KW 1基
ターボ冷凍機(夜間蓄熱運転系統)
冷却能力 312KW 1基
空冷チリングユニット(夜間運転系統)
冷却能力 132KW 1基
- (2) ボイラー設備
貫流ボイラー(暖房・加湿用)熱出力 940KW
(換算蒸発量1,500kg/h)

伝熱面積 9.9m ³ 2基	屋内消火栓17ヶ所 屋外消火栓14ヶ所
(3) 空気調和設備 (10系統)	ハロン消火設備 (収蔵庫のみ 3区画)
冷却能力合計 930.3KW	二酸化炭素消火設備 (収蔵庫のみ 2区画)
加熱能力合計 562.1KW	〈その他の設備〉
(4) 換気設備一式	(1) 荷物用エレベーター
給気量 (7系統) 合計 25,850m ³ /h	容量2,500kg 45m/min 1基
排気量 (9系統) 合計 28,360m ³ /h	(2) 乗用エレベーター
(5) 空調自動制御設備一式	積載量750kg 11人乗45m/min 2基
〈防火防災設備〉	(3) 電話設備 局線5回線 内線57回線
(1) 防災設備 排煙口32ヶ所・垂れ壁6ヶ所	(4) 衛生設備 給排水設備一式
防火扉36ヶ所・防火シャッター6ヶ所	(5) ガス設備及び避雷針設備
(2) 消火設備 屋内外消火栓設備一式	(6) ガス燻蒸消毒設備

建 築 予 算

単位：千円

区 分	S44～46年度	S 47 年 度	S 48 年 度	S 49 年 度	計	財 源 内 訳
計 画 策 定 費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫
建 物 費	—	—	591,754	760,996	1,352,750	80,000
展 示 ・ 資 料 費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債
初度調弁・その他	—	—	3,240	35,400	38,640	1,241,000
調 査 事 務 費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	737,131

増 築 予 算

単位：千円

区 分	H 3～4年度	H 5 年 度	H 6 年 度	H 7 年 度	計	財 源 内 訳
計 画 策 定 費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債
建 物 費	—	—	354,805	613,438	968,243	1,117,000
展 示 ・ 資 料 費	—	1,500	141,784	310,534	453,818	一般
初度調弁・その他	—	—	—	11,000	11,000	461,174
調 査 事 務 費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

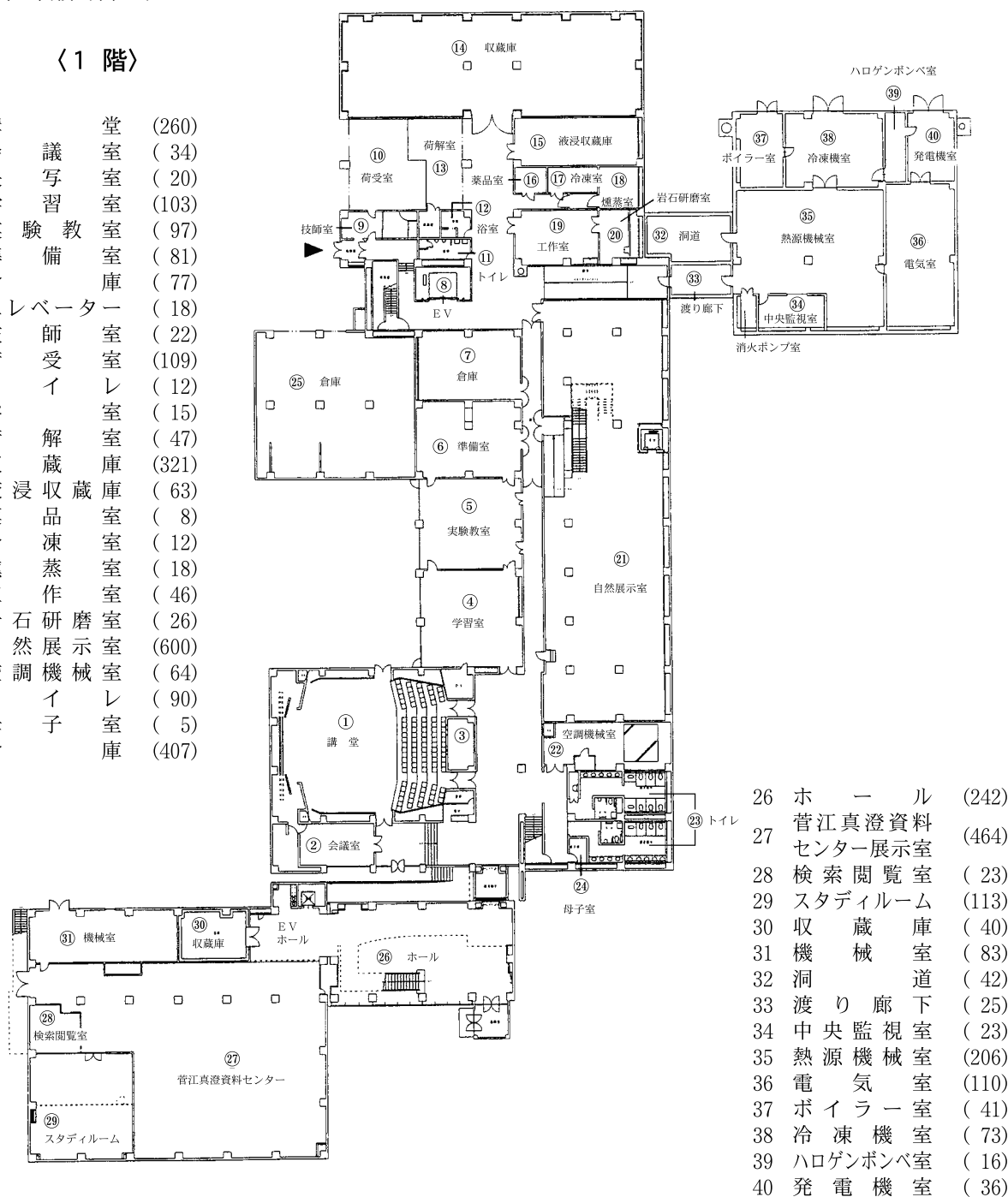
NMP21事業予算

単位：千円

区 分	H11年度	H13年度	継 続 費			小計	事業費合計	財源内訳
			H13年度	H14年度	H15年度			
工事請負費	—	—	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債
委 託 費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	1,516,000
調査事務費	5,250	—	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	571,400

() 内の数字は面積 (単位 m^2)

1	講	堂	(260)
2	議	室	(34)
3	写	室	(20)
4	学	室	(103)
5	実	教	(97)
6	準	備	(81)
7	倉	庫	(77)
8	工	一	(18)
9	技	師	(22)
10	荷	受	(109)
11	ト	イ	(12)
12	浴	室	(15)
13	荷	解	(47)
14	収	蔵	(321)
15	液	浸	(63)
16	葉	品	(8)
17	冷	凍	(12)
18	燻	蒸	(18)
19	工	作	(46)
20	岩	研	(26)
21	自	展	(600)
22	空	調	(64)
23	ト	イ	(90)
24	母	子	(5)
25	倉	庫	(407)



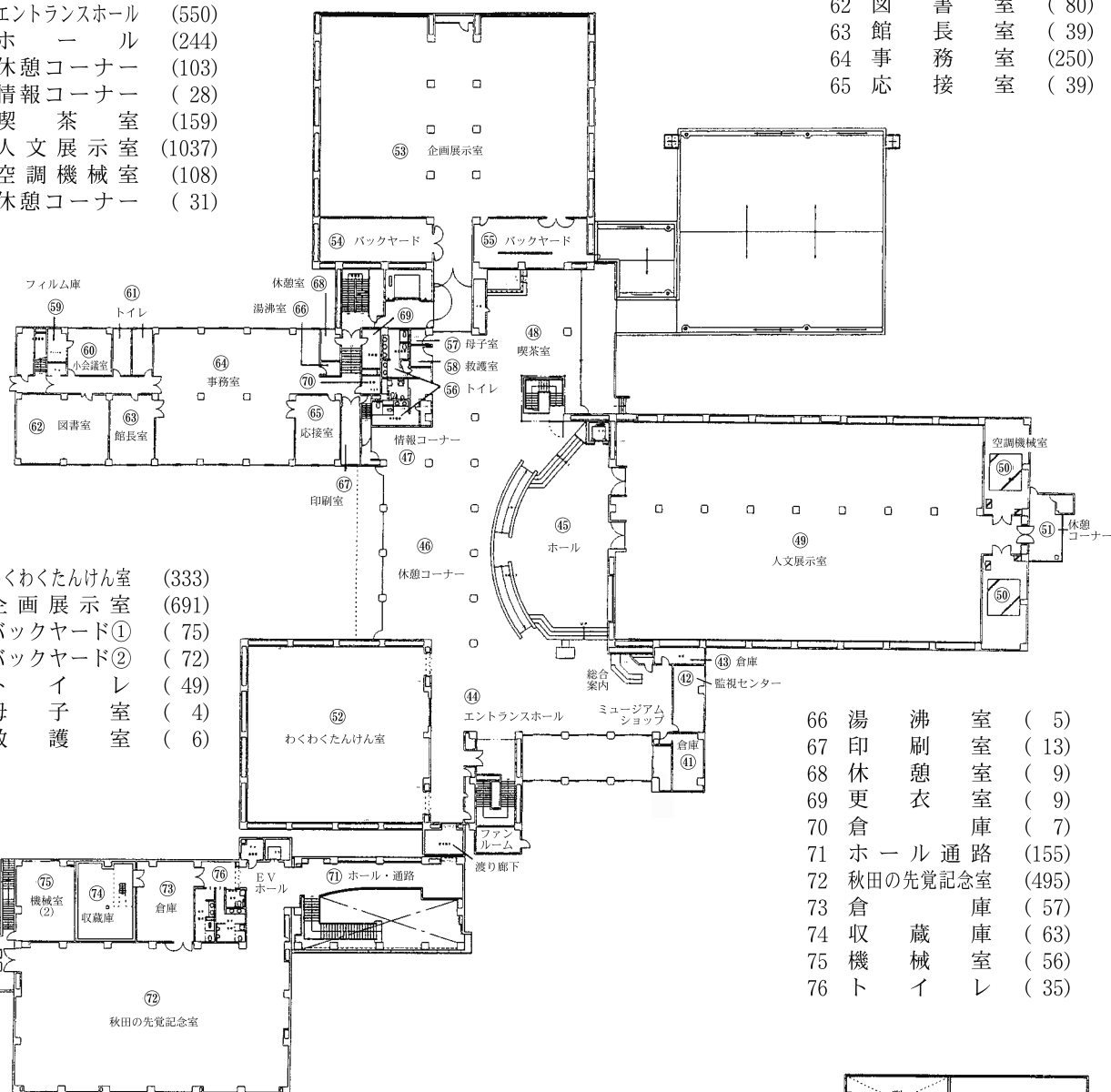
展示部門	3,620
研究部門	388
收藏部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2 階〉

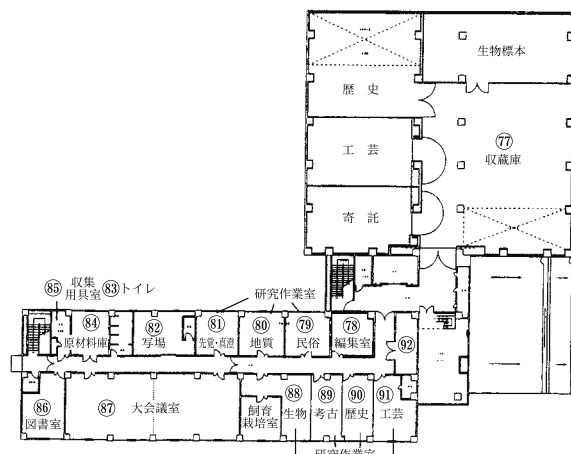
- 41 倉 庫 (23)
- 42 監視センター (25)
- 43 倉 庫 (14)
- 44 エントランスホール (550)
- 45 ホール (244)
- 46 休憩コーナー (103)
- 47 情報コーナー (28)
- 48 喫茶室 (159)
- 49 人文展示室 (1037)
- 50 空調機械室 (108)
- 51 休憩コーナー (31)

- 59 フィルム庫 (9)
- 60 小会議室 (26)
- 61 トイレ (29)
- 62 図書室 (80)
- 63 館長室 (39)
- 64 事務室 (250)
- 65 応接室 (39)



〈3 階〉

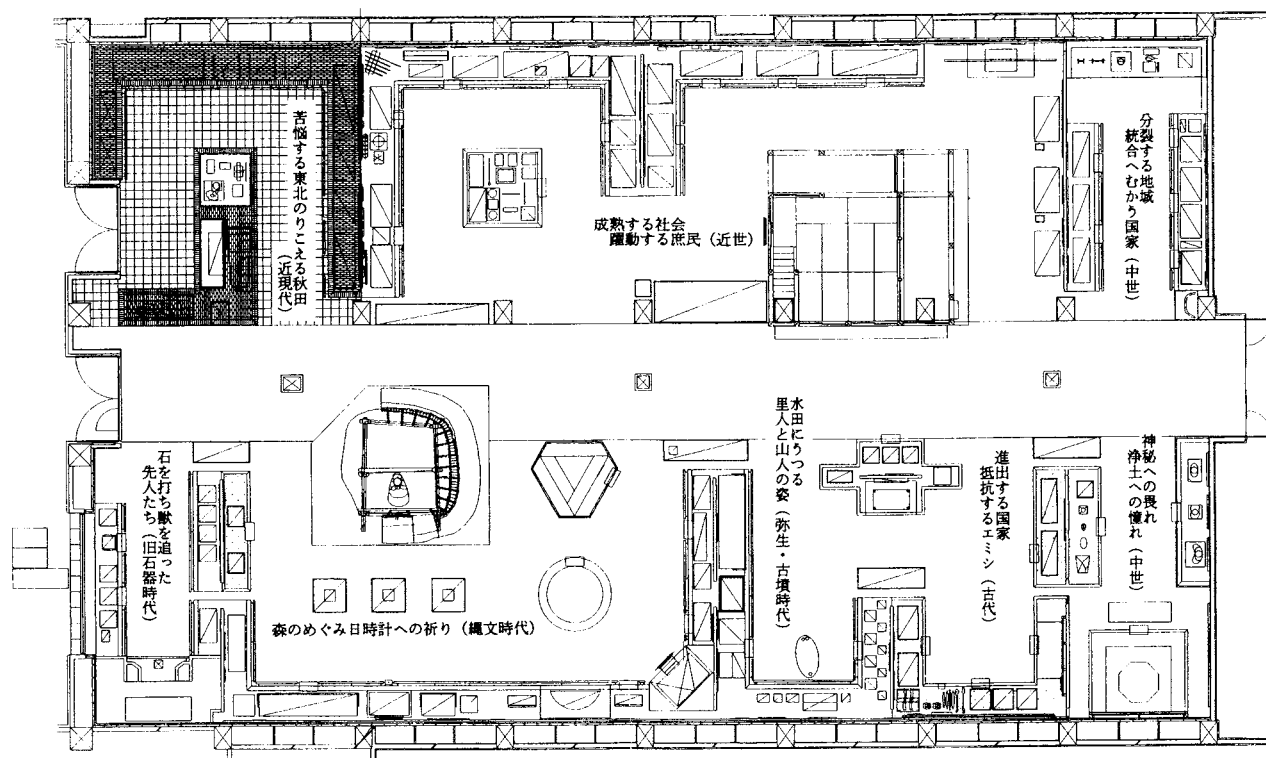
- 77 収蔵庫 (840)
- 78 編集室 (27)
- 79 研究作業室(民俗) (28)
- 80 " (地質) (28)
- 81 " (先覚・真澄) (27)
- 82 写場・暗室 (38)
- 83 トイレ (15)
- 84 原材料庫 (24)
- 85 収集用具室 (10)
- 86 図書室 (34)
- 87 大会議室 (158)
- 88 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
- 89 研究作業室(考古) (27)
- 90 " (歴史) (27)
- 91 " (工芸) (39)
- 92 倉庫 (19)



Ⅲ 展 示 室

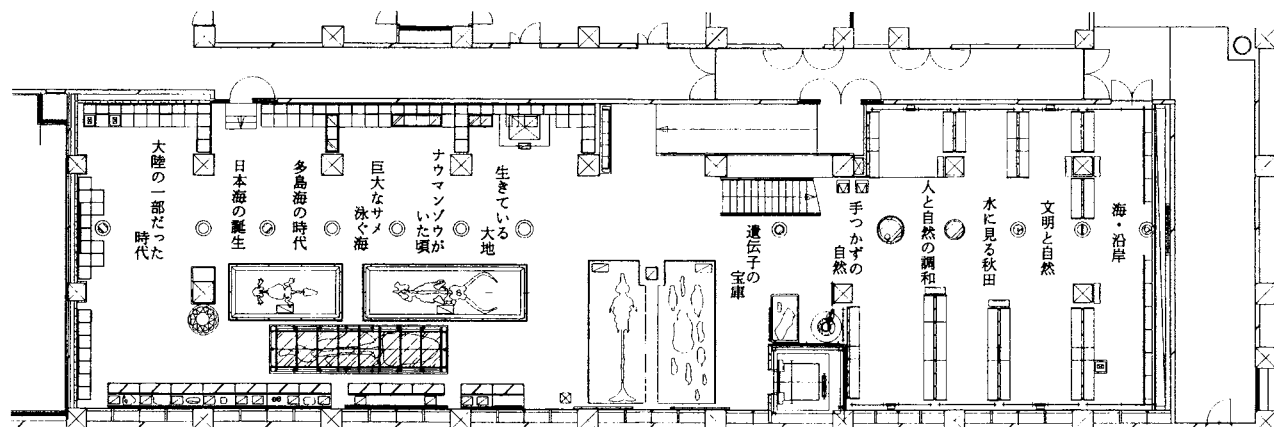
◆ 人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気の中で自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

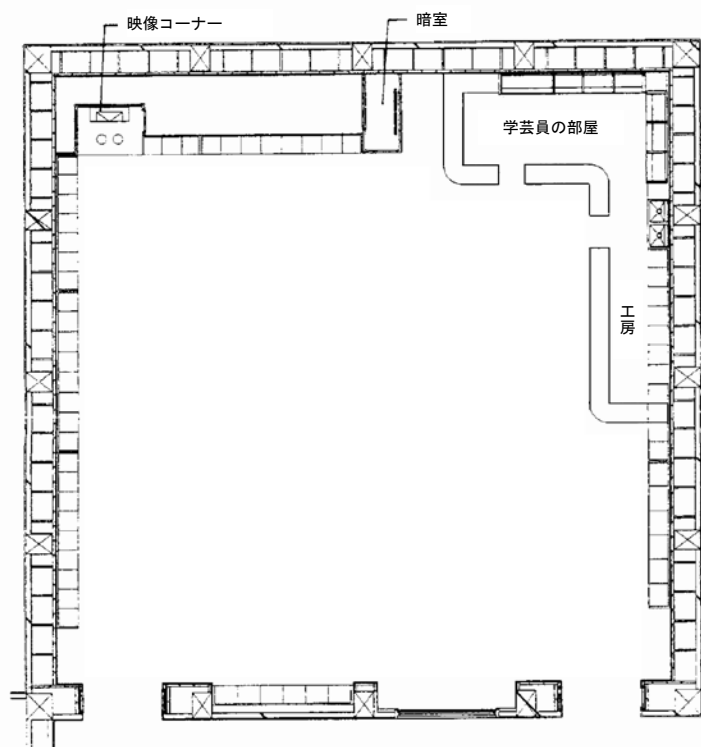


◆ 自然展示室

「いのちの詩」(生物)・「大地の記憶」(地質)の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力を余すところなく映し出す映像資料も展示している。



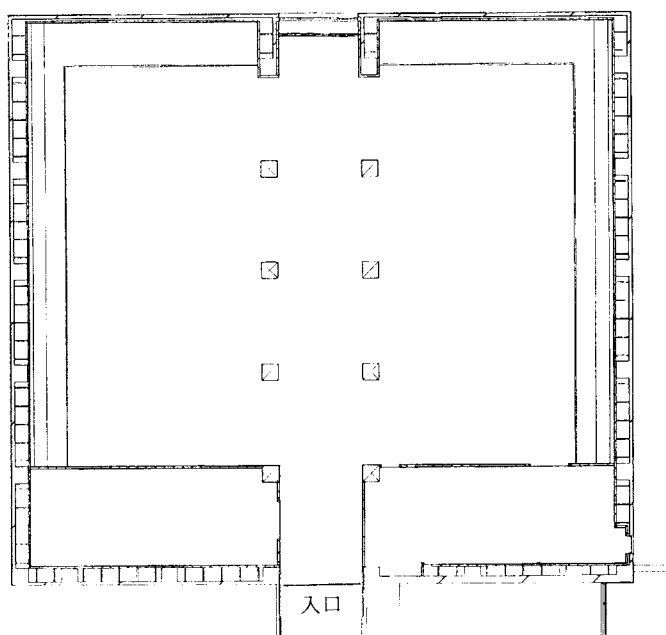
◆ わくわくたんけん室



「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに、様々なアイテムを利用できる展示室。工作や塗り絵などの体験活動を楽しみながら、秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。工芸や自然などの資料を紹介するミニ展示コーナーもある。



◆ 企画展示室

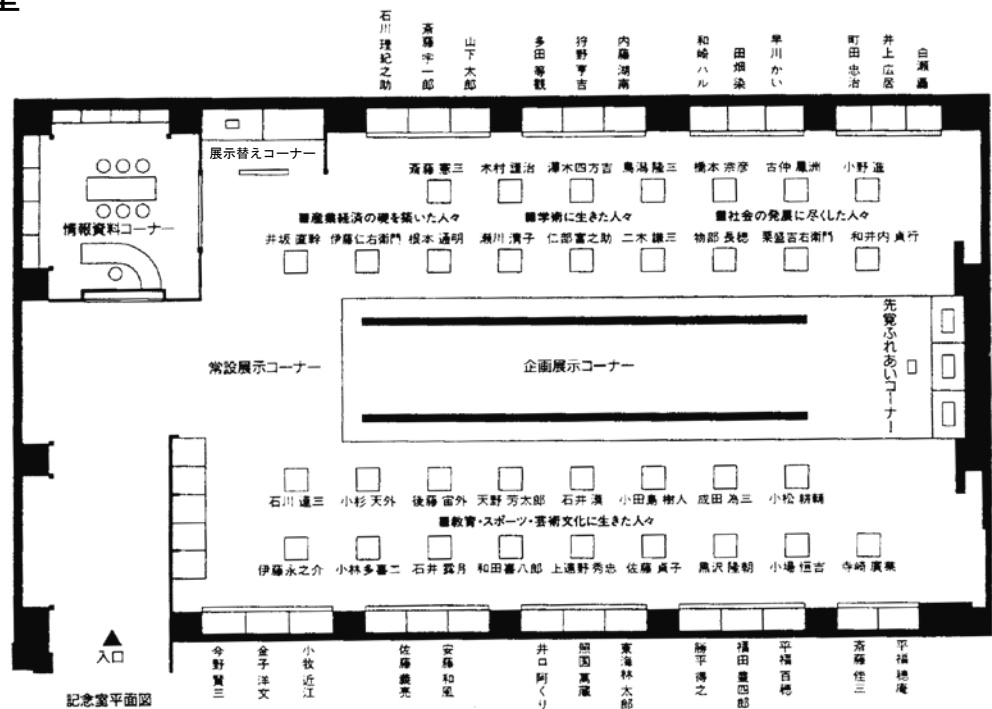


従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。

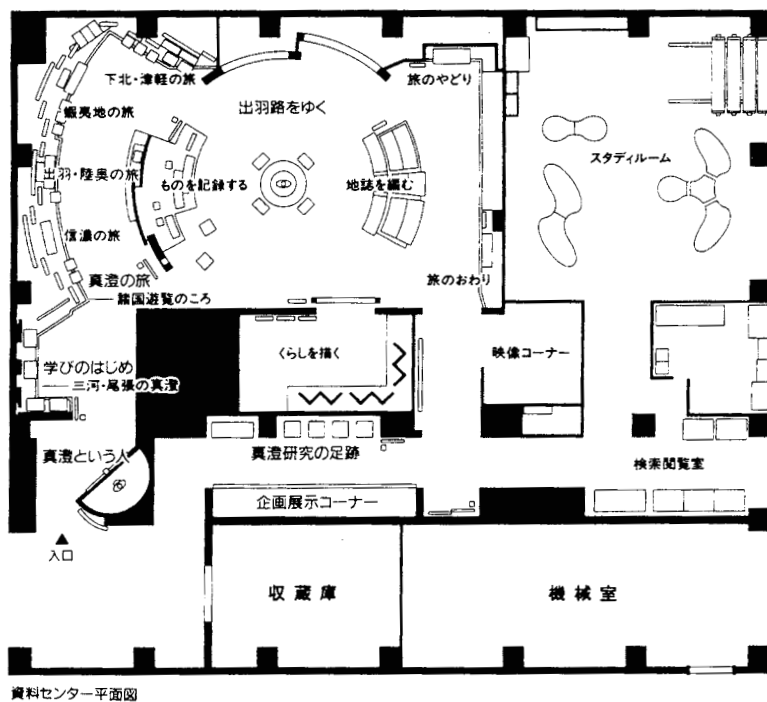


◆ 秋田の先覚記念室

近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。



◆ 菅江真澄資料センター



江戸時代の紀行家・
文人菅江真澄の生涯
と、彼が著した日記や
図絵を展示するほか、
多くの映像機器によ
り、真澄の生きた時代
などをわかりやすく展
示している。

スタディールーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

◆ 分館・旧奈良家住宅

所在地 秋田市金足小泉字上前 8 電話 018 (873) 5009

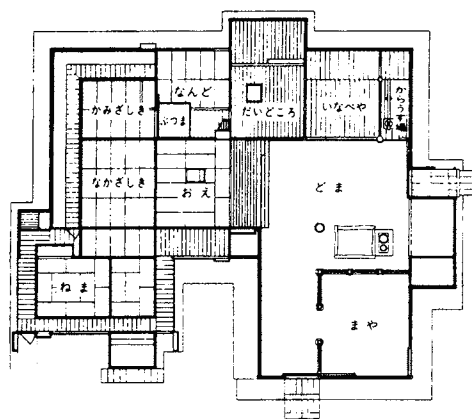
旧所有者 奈良恭三郎（昭和44年 5 月寄贈）

昭和40年 5 月29日 重要文化財（建築面積 459.08㎡）

旧奈良家住宅は J R 東日本奥羽本線追分駅から 2.5km、博物館から 1 km の男湯北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉湯公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）9代喜兵衛が銀70貫と3年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



◆ 旧奈良家住宅附属屋

敷地内にある附属屋は平成18年 3 月に登録有形文化財に指定された

味噌蔵……明治 7 年に建造された、土蔵造の建物

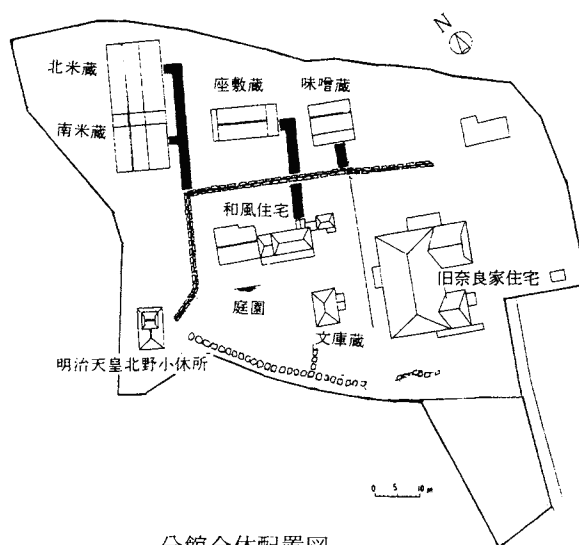
座敷蔵……明治23年に建造された、土蔵造の建物

米蔵……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

明治天皇北野小休所（移築）……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

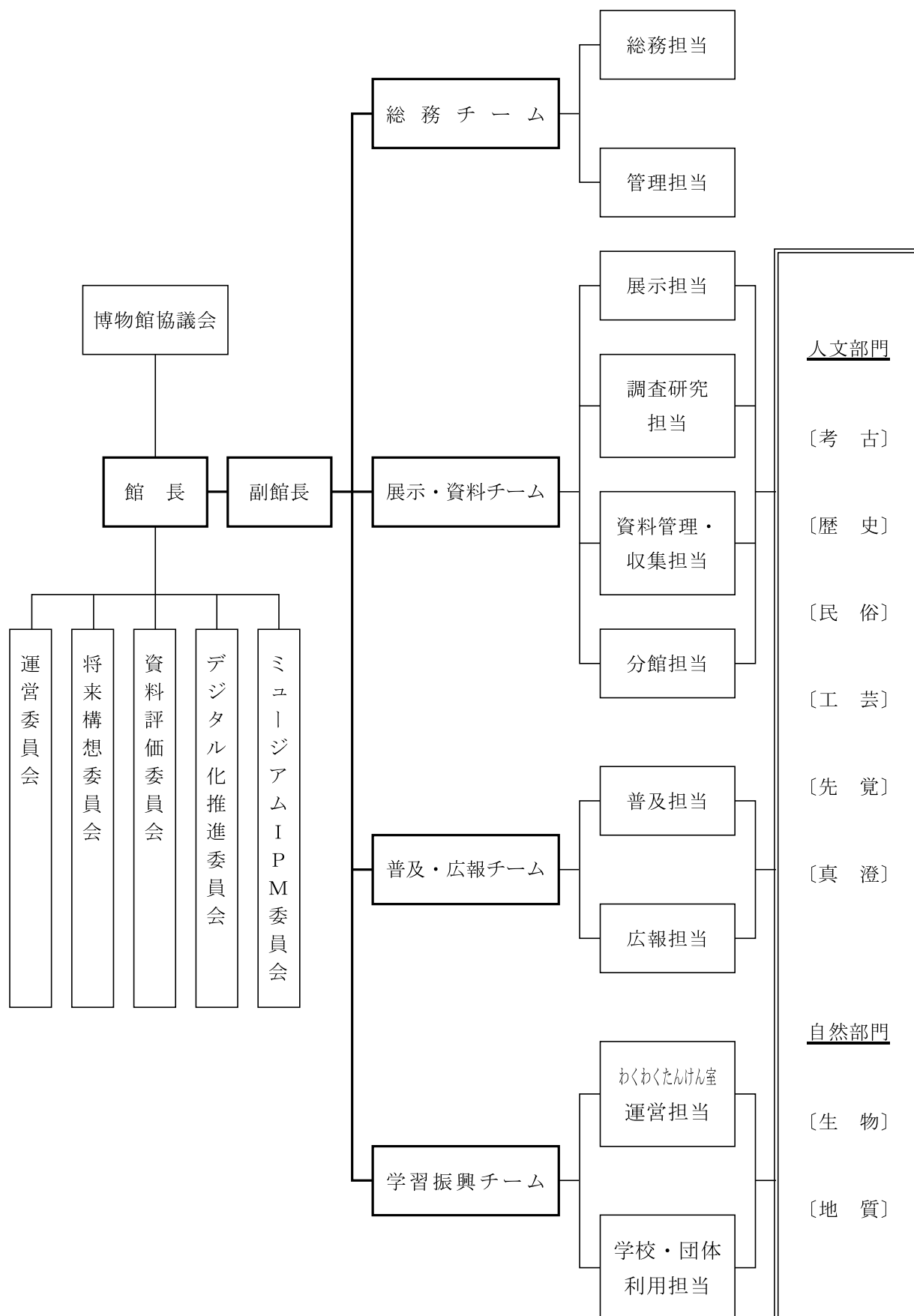
和風住宅……明治28年に建造された、木造二階建の建物

文庫蔵……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

IV 組 織



V 職 員

チーム名	職 名	氏 名	各チームの分掌と部門担当
	館 長	藤 原 淳	総括
	副 館 長	坂 本 卓 也	館長の補佐
総務チーム	副 主 幹 (兼)チームリーダー	小 松 恵美子	チームの総括 非常勤職員の任免、防災・衛生管理に関すること
	副 主 幹	高 橋 健	管理、営繕、歳出予算に関すること
	主 査	藤 原 祐 佳	サービス、給与、歳入予算に関すること
	技 能 主 任	武 田 光 彦	空調設備運転、施設設備管理に関すること
	技 能 主 任	大 川 一 成	公用車運転、施設設備管理に関すること
展示・資料チーム	主任学芸専門員 (兼)チームリーダー	新 堀 道 生	チームの総括 歴史部門に関すること
	主任学芸主事	畑 中 康 博	歴史部門、展示企画・調査研究に関すること
	学 芸 主 事	深 浦 真 人	民俗部門、展示企画・資料管理に関すること
	学 芸 主 事	築 地 洋	地質部門、調査研究・資料管理に関すること
	学 芸 主 事	藤 中 由 美	生物部門、展示企画・資料管理に関すること
	学 芸 主 事	鈴 木 照 洋	地質部門、資料管理に関すること
普及・広報チーム	学 芸 主 事 (兼)チームリーダー	黒 川 陽 介	チームの総括 歴史部門に関すること
	副 主 幹 (兼)学芸主事	加 藤 朋 夏	考古部門、広報に関すること
	副 主 幹 (兼)学芸主事	鈴 木 秀 一	先覚部門、広報、教育普及に関すること
	学 芸 主 事 (兼)シニアエキスパート	小 野 博 美	生物部門、教育普及に関すること
	学 芸 主 事	角 崎 大	真澄部門、広報に関すること
学習振興チーム	主任学芸専門員 (兼)チームリーダー	丸 谷 仁 美	チームの総括 民俗部門に関すること
	副 主 幹 (兼)学芸主事	三 浦 たみ子	先覚部門、学校団体利用に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	山 本 丈 志	工芸部門、わくわくたんけん室の運営に関すること
	学 芸 主 事	渡 部 猛	考古部門、わくわくたんけん室の運営に関すること
	学 芸 主 事	奈 良 香	工芸部門、学校団体利用に関すること

〔会計年度任用職員〕
 千田 藤 男(ボーラー)
 三浦 信 一(同)
 黒沢 清 直(守衛)
 鈴木 博(同)
 最上 武 元(同)
 石黒 司(同)
 虻川 政 法(工 作)

加賀谷 洋 子(展示解説・案内)
 小林 純 子(同)
 佐藤 里 美(同)
 三浦 由華子(同)
 渡 會 知 子(同)
 小林 清 佳(同)
 熊谷 桐 子(同)
 佐藤 加寿子(同)
 大場 文弓華(同)
 神谷 尚 子(同)

嵯峨 彩 子(学芸補助)
 佐々木 由 衣(同)
 藤井 千 里(同)
 唐津谷 浩 生(同)
 佐野 富 之(同)



事業の概要

I 令和8年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに培ってきた博物館活動の成果を継承し、さらに、これからの博物館に求められる多様化・高度化した役割を果たすことにより発展させ、県民文化の向上に寄与する。

- 1 県民の知の拠点施設として、県民や関係機関と協働・連携し、秋田に関する調査・研究を進める。
- 2 秋田の文化や自然を次世代につなげるため、資料の収集・保全及び情報のデジタル化に努める。
- 3 県内唯一の県立の総合博物館として、広く秋田の魅力を発信するとともに、展示・公開の充実を図る。
- 4 県民の生涯学習に資する社会教育施設として、全ての世代に向けた教育普及活動を推進する。

II 令和8年度博物館事業計画

1 重点目標

- (1) 博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産の価値を高め、地域に還元する。
 - ア 組織的、計画的な調査研究に取り組み、博物館資料としての価値を高める。
 - イ 調査研究の成果を、広く県民に公開・発信する。
- (2) 県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。
 - ア 収蔵資料の増加に対応すべく、収蔵資料の整理及び収蔵環境の維持と改善に努め、ミュージアム I P M に取り組む。
 - イ 収蔵及び展示資料のデジタル・アーカイブ化を推進し、他の機関との連携を強化する。
 - ウ デジタル化の進捗に対応し、利用者向けの情報加工を行い、広く県民の学習活動を支援する。
- (3) 驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。
 - ア 県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を実施する。
 - イ 来館者の声を活かし、県民目線に立ち、他の機関とも連携した展示活動を実施する。
- (4) 博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。
 - ア 博物館教室、展示関連事業等により、普及活動の充実を図る。
 - イ 諸機関との連携事業や館外講座等を推進し、博物館活動の普及に努める。
- (5) 博物館活動の広報を通して、郷土への誇りや愛着の醸成に努める。
 - ア 印刷物やホームページ、SNS等、それぞれの媒体の特徴を活かしながら博物館活動の様子と郷土の魅力を発信する。
- (6) 県民の生涯学習に資する社会教育施設を目指し、幅広い年代の人たちに向けた教育普及活動に取り組む。
 - ア 幅広い年代の人たちを対象としたアイテム・イベント・コンテンツの開発に引き続き努め、博物館への興味・関心を高める。
 - イ 学校団体によるセカンドスクールの利用の充実を図るとともに、参加する児童・生徒に応じた利用計画を提案し、学校教育との一層の連携を図る。

2 活動計画

調査研究

◇調査研究

- ・展示会開催を目的とする調査研究
- ・執筆・講演・講座等に伴う調査研究
- ・特定の分野・フィールドに関する調査研究
- ・他機関からの依頼・要請による調査研究、共同研究
- ・収蔵品の収集・整理と収蔵品に関するデータ・調書の作成
- ・教育普及・広報・学習振興・館運営に関する調査研究

- ・レファレンス対応に伴う調査研究
- ・専門分野に関する文献情報の収集
- ・調査研究報告会、研修会

◇成果の公表

- ・『秋田県立博物館研究報告』の編集発行
- ・『真澄研究』の編集発行

資料収集管理

◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

◇資料データベース化の推進

◇収蔵庫管理の推進

◇燻蒸消毒作業

- ・収蔵庫 ◎燻蒸期間 9月7日(月)～14日(月)

展示

◇展示活動

- ・企画展示室における企画展・特別展
企画展「秋田の大地と成り立ち」
4月25日(土)～6月28日(日)
特別展「わけあって絶滅しました。展」
7月11日(土)～8月30日(日)
企画展「シン・秋田画人伝 補遺と訂正のジレンマ」
9月19日(土)～11月29日(日)
企画展「土瀝青コネクションー縄文の知恵×明治の知識人ー」
12月19日(土)～令和9年4月4日(日)
・菅江真澄資料センター企画コーナー展
「秋田藩と真澄」
5月23日(土)～7月12日(日)
「これまでとこれからー菅江真澄資料センター開設30周年記念展ー」
7月25日(土)～9月27日(日)
「The Scientific Eyeー真澄の科学的視点ー」
10月17日(土)～12月13日(日)

- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
「後藤宙外と弘田柵跡」
10月7日(水)～12月6日(日)
・ふるさとまつり広場
「子どもの成長を願う～天神人形～」
4月23日(木)～6月16日(火)
「わけあって絶滅しました。展 関連展示」
7月11日(土)～8月30日(日)
「災いを防ぐ～ショウキサマ～」
10月1日(木)～11月17日(火)
「新年に向けて～縁起物～」
12月3日(木)～令和9年2月2日(火)
「春の訪れ～ひな人形・押絵～」
令和9年2月25日(木)～4月6日(火)
・他施設との連携展示
「秋田の漆器ー多様な技とその歩みー」 県立図書館
4月9日(木)～5月19日(火)
大館市立栗盛記念図書館連携展示(菅江真澄)
10月30日(金)～11月8日(日)

◇博物館教室・講演会

- (1) 化石と地層の観察会 (全2回)
5月17日(日)、5月24日(日)
- (2) 昆虫教室ー採集と標本づくりー (全2回)
7月19日(日)、8月16日(日)
- (3) 鉱物に親しむ。 1月17日(日)
- (4) 鉱物標本をつくる。 1月24日(日)
- (5) 「真澄に学ぶ教室」講読会ー県外の日記を読むー
〔土曜日コース〕 (全10回)
5月23日、6月27日、7月25日、9月26日、
10月24日、11月28日、12月19日、1月23日、
2月27日、3月13日
〔日曜日コース〕 (全10回)
5月24日、6月28日、7月26日、9月27日、
10月25日、11月29日、12月20日、1月24日、
2月28日、3月14日
- (6) 初級者向け 秋田の中世史教室 (全2回)
7月19日(日)、8月16日(日)
- (7) 初級編 秋田の縄文を学ぶ～レプリカ・レリーフ
を作りながら 7月25日(土)
- (8) 初級編 縄文のくらし(衣食)～勾玉作り・弓
矢・火起こし体験を通して 8月1日(土)
- (9) 貝輪をつくる 8月2日(日)
- (10) My Jomon Cup (全3回)
8月30日(日)、9月6日(日)、9月27日(日)
- (11) 真澄に学ぶ出張教室ー菅江真澄入門ー
9月13日(日)
- (12) 三浦館と旧奈良家住宅の見学会 9月18日(金)
- (13) 久保田城「絵図歩き」(全2回)
9月19日(土)、10月17日(土)
- (14) 初めての古文書解読 (全6回)
10月4日(日)、10月11日(日)、10月18日(日)、
10月25日(日)、11月1日(日)、11月8日(日)
- (15) 60年前の秋田 昭和41年ひろば～モノや写真で
振り返る暮らしと記憶～ (全2回)
10月10日(土)、11月14日(土)
- (16) 秋田の先覚を知る I・II
2月21日(日)、3月7日(日)

- (17) 民俗学入門講座 3月14日(日)
- (18) 秋田の絞り染め(藍染め) (全4回)
7月5日(日)、8月8日(土)・9日(日)・
11日(火祝)のうち1日、8月22日(土)、
10月10日(土)～12日(月祝)のうち1日
- (19) ゼロからはじめるワラ仕事 (全3回)
11月11日(水)、11月18日(水)、11月25日(水)
- (20) 木工芸 Christmas ornament 12月6日(日)
- (21) 「真澄に学ぶ教室」講演会 7月4日(土)

◇イベント

- (1) 『軒の山吹』再現 4月25日(土)・26日(日)
- (2) ミュージアム・コンサート等 令和9年3月

◇ミュージアム・トーク

◇展示付帯事業

◇館外講座

- (1) 出前講座 (あきた県庁出前講座)
- (2) 出張講座
- (3) 出前授業
- (4) その他

◇県内外の博物館等類似施設との連携

- (1) 日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会
- (2) 秋田県博物館等連絡協議会
- (3) 秋田市内文化施設連絡会議 (みるかネット)

◇博物館友の会との連携

◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携

◇各種研修・実習等の受け入れ

- (1) 博物館実務実習 (大学)
- (2) 中堅教諭等資質向上研修
- (3) 教育センターと連携した研修

広報・出版

◇広報活動

- ・事業に関する広報計画の策定と実施
展示・イベント広報
配布・発送計画
- ・その他の広報活動の実施と改善
ホームページ、フェイスブック、インスタグラムの充実
プレスリリースの充実
広報資料、出版物等の管理
館内掲示物の管理

・秋田県立博物館研究報告第52号

A 4判 100頁 500部

・広報紙「真澄」No.44

A 4判 8頁 1,000部

・真澄研究第31号

A 5判 110頁 400部

・秋田の先覚記念室企画コーナー展展示解説資料

A 4判 8頁 1,000部

・展示ポスター、広報フライヤー

企画展「秋田の大地と成り立ち」

特別展「わけあって絶滅しました。展」

企画展「シン・秋田画人伝 補遺と訂正のジレンマ」

企画展「土瀝青アスファルトコネクション

ー縄文の知恵×明治の知識人ー」

◇出版物の刊行・配布

- ・年報 令和8年度 A 4判 47頁 800部
- ・博物館ニュースNo.183・184
A 4判 8頁 各2,300部

学習振興

◇わくわくたんけん室の運営

- ・一般及び団体利用の促進
- ・室内・体験アイテムの保守管理
- ・休日イベントの計画立案
- ・体験アイテムの保守管理
- ・新アイテムの開発及び提供
- ・出張わくわくたんけん室の企画運営
- ・博物館ボランティアとの連携
- ・消耗品の補充管理
- ・展示室内のデジタル化の推進
- ・わくわく展示の企画・実施

◇学校団体の利用促進

- ・学校団体のセカンドスクールの利用の促進
- ・出前授業の広報及び利用の促進
- ・学校利用の集計及び報告
- ・保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の利用分析

◇その他、教育的支援

- ・中学校職場体験や高校生インターンシップ・ボランティア活動の受け入れ
- ・「教員のための博物館の日」の計画と実施
- ・大学との地域連携

分館・重要文化財旧奈良家住宅

主屋（重要文化財）を令和8年4月1日(水)から令和9年3月31日(水)まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間に公開をする。附属屋については、内部公開の希望に応えるために令和8年9月18日(金)に公開し学芸職員が解説を行うなど、適宜公開する機会を

設ける予定である。

なお、令和7年6月から令和9年3月までの2ヶ年で、重要文化財「旧奈良家住宅」（県立博物館分館）を適切に維持管理するための耐震診断を実施する。診断の結果によって、必要な耐震補強や建物修理を行う予定である。

Ⅲ 令和7年度事業報告

1 調査研究活動

各部門で文献調査、資料調査等を実施し、その成果を展示会、普及事業、デジタルアーカイブ、事業運営等に反映させた。研究報告51号に6本、真澄研究29号に5

本の論文・翻刻等を掲載した。研究報告会を1回開催した。

調査研究

◇加藤朋夏（考古・館外連携・博物館学）

- ・企画展「秋田県博50年のあゆみ」において、考古部門の展示構成と解説を担当した。
- ・令和8年度の企画展に向け、収蔵資料（佐藤初太郎旧蔵品など）の整理と、来歴等に関わる調査を行った。
- ・縄文時代の貝輪素材獲得環境について検討するため、海岸の特定エリアを調査区と定め、継続的にベンケイガイの漂着状況を調査している。採集した貝殻については、考古ボランティアの協力を得ながらサイズや状態に関してデータ化を進めている。
- ・県産業技術センターに御協力いただき、館蔵品である重要文化財「人面付環状注口土器」のハンズオン用レプリカを作成し、視覚障害者のための資料鑑賞プログラムを検討、試行した。
- ・秋田市内の地域包括センターが主催する高齢者の交流会で、県庁出前講座「博物館資料から考える秋田の原始・古代」として講座を行った。

◇渡部 猛（考古・博物館学）

- ・深澤多市の翻刻を主な資料として、払田柵跡の国の史跡指定までの当時の状況について考察を行い、『研究報告』第51号に掲載した。
- ・「山下孫継資料」の整理を行い、資料目録を作成し『研究報告』第51号に掲載した。
- ・わくわくたんけん室のデジタルサイネージ用の動画（博物館周辺の自然）を5本作成した。また、企画展「昭和のアキタ」の展示室内の動画を3本作成した。開館50周年記念式典用の動画を編集作成した。

◇新堀道生（歴史・館外連携）

- ・企画展「秋田県博50年のあゆみ」の開催にむけて、展示候補とする資料、特に開館に至る経緯を証する文書・図面類を調査した。
- ・県文化財保護室からの依頼により、由利本荘市、にかほ市の寺社什物を調査した。
- ・にかほ市平沢の廻船業・佐藤家旧蔵資料を調査し、同

市主催の「やさしい古文書講座」や、由利本荘市主催の講演会で紹介した。

- ・小幡三郎右衛門日記を翻刻し『研究報告』第51号に掲載した。

◇黒川陽介（歴史）

- ・博物館教室「初級者向け 秋田の中世史教室」の開催にあたり、参考文献の調査を行った。
- ・博物館教室「久保田城『絵図歩き』」の開催にあたり、巡検コースの策定や下見、解説準備などを行った。
- ・デジタル解説コンテンツ（アキハクコレクション）に追加掲載する10点の資料について、解説文等の掲載内容をまとめた。
- ・歴史部門収蔵庫内での資料保管場所を点検し、収蔵資料一覧データの更新作業に取り掛かった。作業は次年度以降も継続する予定である。

◇丸谷仁美（民俗・館外連携・博物館学）

- ・企画展「昭和のアキター百年のくらしをつづるー」の展示作業を行った。
- ・八戸市教育委員会の依頼による八戸えんぶりの調査を継続して行い、岩手県九戸郡洋野町の大渡えんぶりについて調査を行った。
- ・研究報告第51号に「ブルーノ・タウトと秋田ー『草園』同人とのつながりを中心にー」を執筆した。
- ・学校団体対応の受け入れや、わくわくたんけん室のイベントの実施・民俗のミニ展示などを行った。
- ・委嘱を受けている能代市・横手市・湯沢市の文化財保護審議会の会議に出席した。

◇深浦真人（民俗・館外連携・博物館学）

- ・令和2年度から実施している博物館教室「60年前の秋田～モノや写真で思い出を語り合う会～」について回顧した。その中から、令和6年度に実施した博物館教室の内容を博物館ニュース第181号で紹介した。
- ・令和7年5月7日に秋田魁新報社「すいよう学芸館

美を知る」に「子どもの成長を願う～端午の節句～」の題でふるさとまつり広場で展示した資料について寄稿した。

- ・由利本荘市の鳥海山木のおもちゃ館で博物館や前の勤務先での活動を紹介する講師を務めた。

◇山本丈志（工芸・館外連携・博物館学）

- ・秋田の書画人を網羅した名著『新訂版秋田書画人伝』（井上隆明著・1981）に誤記、齟齬があるとわかり、昨年度から画人について校訂作業を続けている。令和8年度に調査結果を報告する企画展の開催を目指し作品調査も並行して進めてきた。
- ・木工芸、絵本作りの博物館教室、館外のワークショップにおいて、制作方法、デザインプランを再検討し、受講者により満足していただけるようブラッシュアップした。興味喚起のために木工芸の実際をわくわくたんけん室で昨年に続き展示紹介した。
- ・わくわくたんけん室に新たなデジタルサイネージを導入した。
- ・館員のデザイン意識の向上を図るため行っているグラフィックデザインのワークショップは今年度で6年目になった。

◇藤原尚彦（工芸・館外連携）

- ・これまで調査する機会の少なかった県内の工芸品の中から既に生産の途絶えた五城目焼に関して文献調査を行った。
- ・浅舞絞りの被衣（かつぎ）の寄贈受け入れに伴い、使用されている絞り技術や染色技術、仕立ての特徴等について調査した。
- ・委員を委嘱されている大潟村干拓博物館協議会に出席した。

◇斉藤洋子（工芸・館外連携）

- ・秋田魁新報社「すいよう学芸館 美を知る」において、新着収蔵資料である長康亭道三の絵皿について、その調査成果を寄稿した。
- ・県庁出前講座「秋田のわざ」において、秋田市および藤里町で講演を行った。
- ・11月3日(月)、令和7年度国立民族学博物館共同研究会からの依頼を受け、午前中にはオニグルミを用いたカゴ編みの実技指導を行い、午後には「素材と技術から地域をよむ 秋田編組品の構造的な理解」と題した講演を実施した。

- ・日新小学校1年生を対象に、学習单元「たぬきの糸車」に登場する糸車の実演指導を行った。
- ・企画展「秋田県博50年のあゆみ」において、工芸部門の展示および解説を担当した。

◇藤中由美（生物・館外連携・博物館学）

- ・県立図書館出張展示「稲穂の詩ー秋田と米づくりー県立図書館」の担当として、展示会を開催した。
- ・企画展「秋田県博50年のあゆみ」において、生物部門の展示構成・解説を担当した。
- ・能代市におけるオオトラフトンボの採集記録について、当館研究報告第51号に短報を執筆した。
- ・秋田魁新報社「すいよう学芸館 美を知る」へ、オオセイボウに関する生態的特徴について寄稿した。
- ・捕虫トラップによる館内侵入昆虫種のモニタリング調査を実施した。
- ・受贈資料（昆虫標本）の整理作業を実施した。
- ・外部専門学校の非常勤講師として、講座「秋田を知る（秋田の自然環境）」の講義を担当した。

◇三浦益子（生物・博物館学）

- ・収蔵資料の適切な保存のため、植物標本整理ボランティアの協力のもと腊葉標本の登録や整理を行った。標本情報をデータ化し、資料のデータベース管理を推進した。
- ・博物館教室「葉っぱの標本づくり」の開催にあたり、博物館周辺の植物を調査し、観察のポイントを整理した。
- ・セカンドスクールの利用で来館した小学2年生を対象に、秋田の生きものを題材とした体験型授業を実施した。
- ・わくわくたんけん室でのイベントの年間計画を策定し、運営に携わった。また、植物素材を用いた物作りや哺乳類の足跡のレプリカ作り等のイベントを主導した。

◇築地 洋（地質・館外連携）

- ・県内の公立小学校2校（対象はいずれも小学6年生）ではぎ取り標本や火山灰、化石の観察などを通して地層の成り方について学ぶ出前授業を行った。
- ・令和7年2月、当館に寄贈されたオオツノジカの化石（県内2例目）をエントランスホールに展示（その後常設コーナーに移設）し広く県民に紹介した。
- ・地質部門担当の3つの博物館教室（「地層と化石の観察会」「鉱物標本をつくる。（入門編、応用編）」の企

画や当日の進行を担当した。

- ・地質関連収蔵スペースの整理を進め環境を整えた。

◇鈴木照洋（地質・館外連携）

- ・秋田県内の鉱山跡地等の調査及び、資料の採取を行った。今年度は県内7鉱山で調査を行った。
- ・2階エントランスホールにてオオツノジカの展示を行った。
- ・自然展示室内で展示ケースを3つ使い部分展示「秋田の鉱山 尾去沢鉱山編」を行った。
- ・自然展示室可変展示コーナーにて「秋田で見ない？鉱山の石たち」を行っている。
- ・白神山地世界遺産センター主催の「白神鉱物探し&川探検」に講師として参加した。
- ・仙北市で開催された秋田の鉱山に関する講演会を行った。

◇鈴木秀一（先覚・館外連携）

- ・令和7年度秋田の先覚記念室企画コーナー展「秋田の酒と人」を開催するにあたり、関連情報について精査し、解説資料の作成、展示資料の調査、企業・他施設からの資料借用、展示構成の検討、展示作業を行った。
- ・サキガケ・アド・ブレーンで毎週発行しているフリーペーパー『マリ・マリ』について、月1回掲載されている「秋田の先人名鑑」の原稿の執筆と、それに伴う資料の調査と収集を行った（令和7年4月4日号から令和8年3月6日号掲載分まで）。
- ・寄託資料の管理と更新手続き、寄贈希望の資料についての調査と評価を行い、必要な資料については資料評価委員会へ提案を行った。
- ・令和8年3月1日から31日に開催された、秋田県中央男女共同参画センター主催の国際女性デー特別展「過去と今とつなぐジェンダーの課題ーあきたを変えた女

性たちから考えるー」について、調査および資料閲覧で協力した。

◇三浦たみ子（先覚・博物館学）

- ・企画展「秋田県博50年のあゆみ」において、先覚部門の展示構成と解説を担当した。
- ・子孫の方からのレファレンスを端緒に、先覚者・堀井梁歩に関する調査を実施した。またこの調査の過程で、郷土雑誌『草園』関連資料の所在確認と調査を行った。
- ・次回の企画コーナー展の準備のため、文献調査、資料調査等を行った。
- ・出前授業の依頼を受け、先覚者・石川理紀之助とその業績について授業を行った。

◇角崎 大（真澄・館外連携）

- ・企画展「かく、えがく。ー菅江真澄遺墨資料展ー」の担当として企画立案、資料選定、解説資料作成、資料借用、資料出陳など展示に係る諸業務を行った。
- ・真澄コーナー展「目潟巡る真澄ー男鹿半島の三つの目潟ー」、「真澄の歩いた道ー《ひなの遊び》と《氷魚の村君》ー」、「真澄白語り」の開催に係る諸業務を行った。
- ・真澄テーマ展「真澄クイズー雄勝郡編ー」、「同平鹿郡編」、「同仙北郡編」の開催に係る諸業務を行った。
- ・真澄に学ぶ講演会「真澄が見た生活風景ー働く女性たちを中心にー」の開催に係る業務を行った。
- ・一般団体からの依頼のもと、「図絵で辿る《男鹿の秋風》、《男鹿の春風》」「真澄の記録した自然」、「菅江真澄遺墨資料について」などの講話を行った。
- ・横手市立横手図書館との共催で出張教室講座「菅江真澄入門」を行った。
- ・広報紙「真澄」43号及び「真澄研究」30号の編集・校正作業を行った。

調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

館内における調査研究の共有と研鑽を目的として、令和7年度は以下のとおり館内報告会を開催した。

日時 令和7年5月22日(水) 16:40~17:00

場所 大会議室

- ・身近な資料保存対策ー低温処理の実際ー

藤中由美

研究報告等の発行

◇研究報告』第51号

- ・男鹿半島安田海岸鮎川層産出のヒシ属化石
五井昭一・鈴木照洋・築地 洋
- ・秋田県能代市におけるオオトラフトンボの記録
藤中由美
- ・払田柵跡と深澤多市
ー深澤多市払田柵跡関連史料を中心としてー
渡部 猛
- ・山下孫継旧蔵 遺跡発掘調査資料目録
ー岩井堂洞窟遺跡関連資料を中心としてー
渡部 猛
- ・ブルーノ・タウトと秋田
ー『草園』同人とのつながりを中心としてー
丸谷仁美

- ・〔翻刻〕小幡三郎右衛門日記万延元年（上）

新堀道生・秋田古文書同好会

◇『真澄研究』第30号

- ・真澄が見た生活風景 ー働く女性たちを中心にー
菊池勇夫
- ・現代語訳《ふでのまにまに》第六巻
嵯峨彩子
- ・大館本《錦木》（《錦木雑葉集》所収）の現代語訳
松山 修
- ・大館本《続紀・日本後紀》における書写と利用
松山 修
- ・大館本《高志栞》の見方、考え方
松山 修

2 資料収集管理活動

令和7年度中に寄付等で新たに登録された資料は46件2,465点であった。歴史、生物、地質の各部門で多くの資料を一括して寄贈いただいた。特に生物部門では千点を超える貴重な標本資料をお預かりするなど、館蔵資料の充実が図られた。

令和7年度は薬剤のみに頼らず害虫やカビが発生しにくい環境を整えることによる資料の管理手法(IPM：総合的有害生物管理)を用いた館内の環境整備を本格的に進めるため、ミュージアムIPM委員会を設置して現状を把握するとともに今後の取組について検討を行った。

資料収集・整理・保存・管理

◇令和7年度収集資料一覧

部門	資 料 名	数量	受入区分
歴史	秋田藩名家書画集	1	寄付
	絵葉書	1	寄付
	引揚証明書	2	寄付
	武田家資料	100	寄付
	黒牡丹唐草油筒	5	寄付
	古文書 他	75	寄付
	鉄道関係資料	192	寄付
	河辺郡目長田村資料	29	寄付
	益子清孝氏寄贈資料（歴史分）	137	寄付
	田村明子「天神押絵」 他	10	寄付
民俗	安斉優子「八橋人形」	2	寄付
	下田勝「八橋人形」	7	寄付
	桑原清子「かんざし」	7	寄付
	養蚕関係資料	40	寄付
	手回し洗濯機 他	16	寄付
	掛け軸 等	53	寄付
	テレビモニター 他	8	寄付
	益子清孝氏寄贈資料（民俗分）	87	寄付
	アイロン	1	寄付

部門	資 料 名	数量	受入区分
工芸	菊大紋に松皮菱文様被衣	1	寄付
	短刀	1	寄付
生物	オオトラフトンボヤゴ殻	4	寄付
	貝類標本および昆虫標本	1,204	寄付
	アオハダトンボ撮影記録(DVD)	1	寄付
	フウチョウ	1	寄付
	昆虫標本（蝶・蛾）	23	寄付
	フタオビハブタエイトカケ 他	3	寄付
	ホルバートケシカタピロアメンボ	23	寄付
	サメハダマルケシゲンゴロウ	5	寄付
	オニギリマルケシゲンゴロウ	13	寄付
	エサキナガレカタピロアメンボ	20	寄付
	エサキコミズムシ	6	寄付
	ハラグロコミズムシ	7	寄付
	ヒメコミズムシ	11	寄付
	ヘリグロミズカメムシ	4	寄付
	ムモンミズカメムシ	13	寄付

部門	資 料 名	数量	受入区分
地質	佐藤隆 化石コレクション(植物他)	219	寄付
	硬石膏 他	4	寄付
	千歳鉱山産鉱石標本群A 他	3	寄付
	シリプトビシ化石	5	採集
	佐藤隆 化石コレクション(2026.1追加分)	12	寄付
	女川層産植物(2026.1追加分)	1	寄付
	女川層産動物化石(2026.2追加分)	1	寄付
先覚	多田等観講演会音声記録	3	寄付
	異本 留孟耶土 他	39	寄付
	益子清孝氏寄贈資料 (先覚分)	65	寄付
合計 (件数)		2,465	(46)

◇令和 7 年度資料収集状況

令和 8 年 3 月末日現在の資料総数 ※各部門下段の網掛け部は令和 7 年度分

	購 入	寄 付	委託製作	所管換え	採 集	その他	合 計
総集	2,917	226	626	18	0	0	3,787 0
美術	415	25	2	8	0	0	450 0
工芸	7,371	6,459 2	1	13	0	0	13,844 2
歴史	5,125	4,342 542	113	184	0	73	9,837 542
考古	245	2,182	31	190	0	0	2,648 0
民俗	2,280	8,966 231	120	36	4	0	11,406 231
生物	17,345	101,258 1,338	7,750	36	1,658	0	128,047 1,338
地質	3,556	3,859 240	1,408	19	9,378 5	0	18,220 245
先覚	131	5,672 107	12	0	0	2	5,817 107
真澄	143	1,945	11	300	0	0	2,399 0
合計	39,528 0	134,934 2,460	10,074 0	804 0	11,040 5	75 0	196,455 2,465

◇令和 7 年度資料特別利用状況

目的別

利用者		県内外別		目 的 別						
		内	外	出 版	映 像	広 報 H P	市 町 村 誌	展 示 資 料	研 究 資 料	そ の 他
博 物 館	県	1	2	0	0	1	0	2	0	0
	市町村	4	3	0	0	0	0	5	0	2
	他	0	2	0	0	0	0	3	0	0
企 業	出 版	4	27	30	0	3	0	0	0	0
	映 像	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	T V	6	5	0	10	0	0	0	0	0
	他	1	11	3	0	3	0	1	0	1
教育 機関	大 学	2	18	3	0	2	0	0	19	
	他	4	1	0	0	0	0	0	1	0
国		0	3	0	0	2	0	0	1	0
県市町村		3	6	0	0	3	0	2	2	0
個 人		15	5	6	0	1	0	0	10	2
計		40	83	42	10	15	0	13	33	5

◇令和 7 年度館蔵資料貸出状況

貸出先		県内外別			目的別				
		県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博 物 館 等		9		9	9				9
教育機関	大 学 校			0					0
	高 等 学 校			0					0
	中 学 校 校			0					0
	小 学 校 校			0					0
	そ の 他			0					0
研 究 所・文化団体				0					0
出 版 報 道 機 関				0					0
都 道 府 県				0					0
市 町 村				0					0
個 人			1	1		1			1
そ の 他				0					0
計		9	1	10	9	1	0	0	10

部門別

部門	件数	利用内容						
		写真 撮影	写真 掲載	画像 貸与	映像 録画	館内 閲覧	デジタル 再利用	その他
工 芸	3	0	1	0	0	1	0	1
考 古	20	13	16	2	0	4	2	6
歴 史	33	1	31	11	0	1	16	1
民 俗	9	0	8	3	0	0	1	0
生 物	1	1	0	0	0	1	0	0
地 質	1	0	1	0	0	0	0	0
先 覚	13	2	10	0	0	1	3	3
真 澄	44	1	10	29	0	0	7	4
その他	1	1	1	0	0	0	0	0

データベース化の推進

新たに運用が開始されている、秋田県立博物館のデジタルアーカイブ、「アキハクコレクション」の充実を図っている。特に旧アーカイブ用のデータ全てのアップロードが終了しており、新規でデジタルアーカイブ用の

データの作成が必要となっている。現在は部門ごとにデータの作成を行っているものの、当館としての方針と目標を定め、今後も秋田県立博物館のデジタルアーカイブの充実を図っていく。

燻蒸消毒および虫・害菌管理

令和7年6月23日から30日にかけて、全館休館を伴う燻蒸作業を実施し、アルプを用いて館内全収蔵庫（1階真澄、2階先覚、3階寄託・工芸・歴史・民俗・生物）の48時間密閉燻蒸を行うとともに、秋田県博物館協議会加盟館から受け入れた資料についても併せて処置を施した。また、エキヒュームSの製造中止に伴い、保有して

いた小型燻蒸機用ボンベの業者への引き渡しを完了した。あわせて、今年度より新たに「ミュージアムIPM委員会」を発足させ、展示室や各収蔵庫・倉庫の環境点検ならびに、虫菌害のリスク要因となる床置き段ボールの撤去を実施するなど、予防的防除の視点に基づいた収蔵環境の最適化に努めた。

3 展示活動

令和7年度は、企画展「昭和のアキター百年の暮らしをつづる-」、特別展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」、企画展「かく、えがく。-菅江真澄遺墨資料展-」、企画展「秋田県博50年のあゆみ」の4展示を開催した。

企画展「昭和のアキター百年の暮らしをつづる-」では、昭和100年目になることを機に、激動の時代の変遷を、当時の暮らしの道具から紹介した。戦争や災害、技術革新を経た現代までの秋田の歩みを、資料を通して辿る展示となった。郷土の歴史と文化を再認識する機会となり、幅広い層からの共感が得られた。

特別展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」では、人気絵本作家のヨシタケシンスケ氏の原画や発想の源泉を、遊び心溢れる演出で展示した。博物館としては異例のアート系企画であり、作家の既成概念にとらわれない自

由な視点と創作の魅力を伝えた。県外客や家族連れ、高齢者層から若年層まで、極めて高い満足度を記録し、約55,000人を動員した。

企画展「かく、えがく。-菅江真澄遺墨資料展-」では、紀行家・菅江真澄が残した日記・地誌・随筆・図絵集など、記録の数々を紹介した。真澄が各地で何を見つめ、どう記したのか、その手法と内容を紐解きながら、菅江真澄の観察眼の鋭さを浮き彫りにした。

企画展「秋田県博50年のあゆみ」では、開館50周年の節目を迎えた当館の半世紀にわたる資料収集や調査研究、普及活動の軌跡を象徴的な収蔵品と共に振り返った。これまでの活動を総括することで、博物館が果たしてきた役割を見つめ直し、今後も秋田県の地域文化の拠点となる博物館であり続ける決意を新たにした。

企画展ほか

◇企画展「昭和のアキター百年の暮らしをつづる-」 令和7年4月26日(土)～6月15日(日)

＜展示概要＞

令和7年は昭和が始まってから100年目にあたる。昭和という時代は、戦争や凶作、不況に翻弄された苦難の時でもあったが、現在に続く物質文化や新しい観念、価値観が作りだされた時代でもあった。

本展覧会では昭和の暮らしに焦点をあて、大正から昭和、そして現在まで続く世相の移り変わりを紹介した。史実に沿った展示というより、その時代を過ごした人々

からの聞き取りの内容や、思いのこもった資料などを中心に紹介することにより、当時の人々が何を感じていたかを展示の中で表現するよう心がけた。映像や写真資料も多く用いることによって、昭和を知らない世代の人にも興味深く観ていただけたようであった。

なお、展覧会の際には、NPO法人秋田歴史文化伝承会に協力いただき、越前谷潔氏や金澤世津子氏から写真の提供をいただいた。

<展示構成>

第1章 昭和のはじまり

大正16年カレンダー 銘仙着物 ラジオなど

第2章 戦争の足音

湯沢児童画 紀元2600年関連資料 統制陶磁器

愛国婦人会関連資料など

第3章 復興への道

オキュパイドジャパンならびにジュラルミン製品

新円紙幣など

第4章 高度成長期を迎えて

秋田国体関連資料 手回し洗濯機 冷蔵庫 秋田市電

関係資料など

第5章 広がる世界

家電製品 ファミリーコンピューター

スーパーチラシなど



展示の様子

<付帯事業>

「昭和を奏でる」博物館にチンドン屋がやって来る！

日時：令和7年4月29日（祝）午後2時から3時

会場：博物館2階ロビー

出演：ダースコちんどん隊

当日はダースコちんどん隊が博物館入口で来館者を出迎え、2階ロビーで昭和歌謡を披露した。幅広い世代の方々132名に参加いただいた。



イベントの様子

担当：丸谷仁美（民俗）

◇特別展 秋田県立博物館開館50周年記念「ヨシタケシンスケ展かもしれない」令和7年7月12日(土)～9月7日(日)

<展示概要>

絵本作家・ヨシタケシンスケ氏の創作世界を紹介する特別展を開催した。会場には、代表作のスケッチ複製約2,500点をはじめ、原画、立体作品、制作過程を示すメモ類、私物コレクションなど、多彩な資料を取り上げた。作品世界を体感できるよう、絵本の場面を立体化したフォトスポットや、口うるさい大人のイラストの口めがけてりんご（のボール）を投げ入れる体験型コーナーなど、来場者が楽しみながら参加できる仕掛けも随所に設けた。特に、作家本人の机を再現したコーナーや、描きかけのラフスケッチを拡大展示したエリアは来場者の注目を集め、アンケートでも「創作の裏側が見えて面白

かった」「ヨシタケさんの頭の中をのぞいた気分になった」といった声が多く寄せられた。

会期中の入館者は約5万5千名にのぼり、特に週末や夏休み期間には家族連れが目立った。年齢層は幅広く、子どもが大人に作品の魅力を説明する姿や、祖父母と孫が一緒に楽しむ光景も見られた。また、8月13日には巡回展16会場目となる当館で累計来場者数100万人を突破したことから記念セレモニーを実施し、ヨシタケ氏描き下ろしの100万人感謝メッセージとトロフィーを追加展示した。

来館者からは、「絵本で見た場面を原画で見られて感動した」「細かい描き込みに気づいて、作品をもっと

好きになった」など、作品そのものへの感動の声が多く寄せられた。また、「自分も何か描いてみたくなった」「考えることが楽しくなった」といった意見もあり、ヨシタケ作品が持つ“気づき”や“想像する喜び”が来場者に強く響いたことがうかがえた。



展示の様子

入場料：一般1,200円（1,000円）

小学・中学・高校生800円（600円）

未就学児無料 ※（ ）は20名以上の団体

主催：「ヨシタケシンスケ展かもしれない」秋田実行委員会（秋田県立博物館・AKT秋田テレビ）、朝日新聞社、白泉社

協力：アリス館、KADOKAWA、集英社、PHP研究所、プロンズ新社、ポプラ社

担当：斉藤洋子（展示・資料チーム）

◇企画展「かく、えがく。－菅江真澄遺墨資料展－」 令和7年9月27日(土)～11月16日(日)

＜展示概要＞

江戸時代後期の紀行家・菅江真澄(1754～1829)は、各地を旅して歩くなかで、様々な記録を残した。真澄が生涯で残した著作数は200冊以上に及ぶといわれ、その内容は日記・地誌・随筆など多岐にわたる。また真澄の記録の大きな特徴は「図絵」を描いたことである。真澄は文章と図絵で様々な事柄を記録した。

本展「かく、えがく。」では、そうした真澄の記録を、それぞれの手法や内容に準じて分類整理し、項目立てて展示紹介した。真澄が「文字」で書いたもの、「図絵」で描いたものを紐解きながら、真澄の記録の輪郭を辿っていき、真澄の考え方や生き方、価値観や行動理念といった「菅江真澄の核心」に迫る展示を目指した。

真澄自筆資料を所蔵する個人、団体の協力を得ながら、貴重な資料を数多く展示することができた。自筆資料ならではの魅力、例えば字形、運筆、色彩、描写の細かさ、果ては紙の質感に至るまでを、来館者に感じ取ってもらうことができた。

＜展示構成＞

序章 菅江真澄とは

第1章 かく

第2章 えがく

終章 最期に記したのは

＜主な展示資料＞

菅江真澄遊覧記（国重要文化財・個人蔵）

菅江真澄著作（秋田県指定文化財・大館市立栗盛記念図書館蔵）

菅江真澄和歌短冊、色紙断簡（個人蔵） 他



展示の様子

担当：角崎 大（真澄）

◇企画展「秋田県博50年のあゆみ」 令和8年1月10日(土)～4月5日(日)

＜展示概要＞

秋田県立博物館は令和7年をもって開館50周年の節目をむかえた。昭和50(1975)年5月、秋田市金足の地に開館してから半世紀、博物館は「郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与する」(秋田県立博物館条例)ことを目的に、資料の収集、調査研究、展示、普及活動を進めてきた。本展では博物館50年のあゆみを振り返り、博物館の誕生にまつわる資料、半世紀にわたる収集品、諸種の活動を紹介した。展示準備のために、倉庫にあった創設期の書類を総ざらいした。段ボールの中に手書きの展示試案、ガリ版刷りの収集予定資料リスト、自主的な研究会の青焼きのレジメなどがぎっしり詰まっており、新たな博物館をつくるにあたっての労苦がしのばれた。

＜展示構成＞

- 1 博物館の誕生－創設と発展－
- 2 収集－「秋田」の証跡をもとめて－
- 3 調査研究－「秋田」をたずねて50年－
- 4 展示会－見せに魅せたる50年－
- 5 教育普及－広め、つながる－

＜主な展示資料＞

- ・博物館計画図(昭和45)
- ・秋田県立博物館公園基本計画報告書(昭和47)
- ・郷土学研究会の記録

- ・秋田県立総合博物館設立構想(昭和47)
- ・定礎式パンフレット(昭和49)
- ・ジオラマ「秋田にゾウがいたころ」残余
- ・佐藤初太郎旧蔵品
- ・萌黄地蓑笠御所車模様振袖
- ・大根たたき
- ・渡辺浩記氏コレクション
- ・硬骨魚類
- ・掛軸「適産調終了記念」
- ・秋田県立博物館調査研究報告(抜刷)
- ・過去の展示会ポスター



展示の様子

担当：新堀道生(歴史)

◇菅江真澄資料センター 企画コーナー展

〔第95回企画コーナー展〕

「目潟巡る真澄－男鹿半島の三つの目潟－」

令和7年7月5日(土)～8月24日(日)

秋田県の西側に位置し、日本海に突き出すような形をした男鹿半島には、【目潟】と呼ばれる三つの淡水湖が存在する。三つの目潟は、火山活動であるマグマ水蒸気爆発によって火口が形成され、そこに地下水などがたまってできた火口湖の一種であり、それぞれ【一ノ目潟】【二ノ目潟】【三ノ目潟】と呼ばれる。江戸時代に男鹿半島を訪れた菅江真澄の日記の中にも、これら三つの目潟が登場し、周辺の様子などとともに記録されている。本展ではこれら三つの目潟に焦点を当て、真澄がどのように記録したかを紹介した。

〈主な展示資料〉

《男鹿の春風》、《男鹿の鈴風》館蔵写本

〔第96回企画コーナー展〕

「真澄の歩いた道－《ひなの遊び》と《氷魚の村君》－」

令和7年11月1日(土)～12月21日(日)

文化6年(1809)7月～9月、菅江真澄は現在の五城目町を拠点にして、近隣の集落を巡って様々な記録を残した。また翌年(1810)の1月には、八郎潟周辺を巡りながら、結氷した八郎潟の湖上で行われていた氷下漁に関する記録などを残した。本展ではその際の日記《ひなの遊び》と《氷魚の村君》を取り上げ、真澄の目を通して見た、当地に暮らす人々の暮らしぶりを紹介した。

〈主な展示資料〉

《ひなの遊び》、《氷魚の村君》館蔵写本

〔第97回企画コーナー展〕

「真澄白語り」

令和8年3月14日(土)～5月10日(日)

菅江真澄は様々な事柄に興味・関心を示したが、特に心を惹かれたものの一つが白である。その証左として、白に関連する内容だけを記録した図絵集を遺している。

本展では、そうした真澄の遺した白の記録に焦点を当

て、真澄が惹かれた白の魅力や、白にまつわる様々なストーリーを取り上げて紹介した。

〈主な展示資料〉

《百白之図 異文一》、《母模字須乃迦多 異文二》大館市立栗盛記念図書館蔵

担当：角崎 大（真澄）

◇秋田の先覚記念室企画コーナー展「秋田の酒と人」 令和7年10月8日(水)～12月7日(日)

＜展示概要＞

令和7年度の企画コーナー展では、秋田がいかにして「美酒王国」としての地位を築いたのか、その歩みを支えた先覚者と技術革新の歴史を取り上げた。かつて秋田の酒は灘や伏見に比して低く評価されていたが、明治以降、情熱ある先覚者たちによって劇的な近代化を遂げた。本展では、醸造試験場の設立に尽力した伊藤恭之助、県内初の品評会優等賞を獲得した伊藤仁右衛門、「寒地醸造法」を確立した伊藤忠吉、そして科学的手法で秋田吟醸酒の礎を築いた「秋田吟醸酒の父」花岡正庸の4名の先覚者に焦点を当て、その挑戦の軌跡を紹介した。

本展では、秋田の酒造りの歴史と4人の功績について、解説パネルで紹介したほか、当館所蔵の古い木製醸造用器具20点や、秋田県が開発した「秋田流花酵母（AK-1）」、酒造好適米「あきた酒こまち」の実物標本やそれらを用いた日本酒製品、現代の酒造りの現場を伝える動画などを紹介し、先人から受け継がれた技術が現代の「伝統的酒造り」へと結実している様子が多角的に展示できる展示とした。

本展の開催にあたり、秋田銘醸株式会社、秋田清酒株式会社、両関酒造株式会社、秋田県総合食品研究センター、秋田県立農業科学館に御協力いただいた。

＜展示構成＞

- 1 日本酒の歴史
- 2 伊藤恭之助
- 3 伊藤仁右衛門
- 4 伊藤忠吉
- 5 花岡正庸
- 6 秋田の酵母と米

＜付帯事業＞

秋田の先覚記念室講演会「秋田の酒造りの魅力 ―酒米開発の歩みと清酒文化―」

日時：10月26日(日) 13：30～15：30

講師：高橋仁氏（清酒製造アドバイザー／元秋田県総合食品研究センター所長）

参加者：38名



展示の様子

担当：鈴木秀一（先覚）

◇可変展示

〔人文展示室〕

「栗駒山麓の縄文人―成瀬ダム建設地内の発掘調査から―」

令和8年3月18日(水)～令和9年2月21日(日)

成瀬ダム建設に伴って行われた発掘調査が、令和7年3月の報告書の刊行をもって全て終了したこの機に、秋田県埋蔵文化財センターから出土品を借用し、山間部に

おける縄文時代の人々の活動の一端を紹介した。

〈展示品〉

トクラ遺跡出土品：縄文土器（早期前葉土器片、後期前葉鉢形土器、後期後葉深鉢形土器、晩期前葉注口形土器）、篋状石器、調整剥片、石錐（篋状石器や調整剥片を転用したもの）、石刀、石棒

北ノ又沢Ⅲ遺跡出土品：縄文土器（早期中葉～後葉土器片、前期初頭深鉢形土器、前期前葉土器片）



展示の様子

担当：加藤朋夏（考古）

〔自然展示室〕

「秋田で見ない？ 鉱山の石たち」

令和7年10月25日(金)～令和8年4月30日(日)

秋田県は多くの鉱山が存在するが、その大部分は鉱脈型鉱床と黒鉱鉱床と呼ばれているものである。しかし日本に分布する鉱床はこれら以外にも様々なタイプの物が存在する。現在地質部門では、秋田県内の鉱床に関する展示を断続的に行っており、また常設展においても展示されている鉱石や鉱物は秋田県内の鉱床で産したもののみである。

今回の展示では秋田県内ではほとんど見ることができないが、日本国内では比較的多く分布するスカルン型鉱床及びクロム鉄鉱床、キースラガー鉱床、変成マンガン鉱床で産した鉱石や鉱物の標本を展示する。そしてこれらの鉱床がどのような場所で、どのように形成したのかの解説を交え地質と鉱床についての理解を深めることを目的とする。



展示の様子

担当：鈴木照洋(地質)

〔ふるさとまつり広場〕

令和7年度は、民俗部門が季節ごとにテーマを決め、秋田の風俗や祭り・行事についての展示を行った。

・子どもの成長を願う～端午の節句～

令和7年4月10日(木)～6月10日(火)

・夏のまつり～七夕絵どうろう～

7月3日(木)～9月11日(木)

・秋の夜長を楽しむ～明かりの道具～

10月9日(木)～11月11日(火)

・正月の来訪神～ナマハゲ～

12月4日(木)～令和8年2月3日(火)

・春の訪れ～ひな人形・押絵～

2月26日(木)～4月7日(火)



「七夕絵どうろう」展示の様子

担当：丸谷仁美・深浦真人（民俗）

◇出張展示、他施設との連携展示

①「稲穂の詩—秋田と米づくり—」（秋田県立図書館）

令和7年4月11日(金)～5月20日(火)

観覧者数：4,303名

秋田県立図書館を会場に、出張展示「稲穂の詩—秋田と米づくり— 県立図書館」を実施した。本展は、前年度当館で開催した企画展の内容を図書館の展示スペー

スに合わせて再構成したものである。展示では、秋田の米づくりがかつて品質の低さから「腐れ米」と呼ばれた苦難の歴史があったことを、当館所蔵の貴重な資料とともに紹介した。米づくりに情熱を注いだ四人の先覚者たちの功績に焦点を当て、現在の「米どころ秋田」へと続く道のりを解説した。また、実際に使われていた農具とともに、秋田市の紙人形作家・草薙郷子氏による生き生きとした農作業の情景を再現した作品を展示することで、当時の暮らしをより身近に分かりやすく伝えた。

さらに、田んぼに生息する昆虫の標本を展示し、農業の進化がもたらした環境の変化や、絶滅が危惧される生き物たちについても紹介した。図書館を訪れる幅広い世代の方々に、米の価値と秋田の歩みを再発見していただく場となった。

②ミュージアム連携出張展「昔の暮らしと道具―秋・冬コレクション」

(秋田県南部老人福祉総合エリア：横手市)
令和7年10月10日(金)～10月30日(日)

観覧者数：1,257名

県生涯学習課主催事業である「みんなのMuseumプロジェクト」の一環として実施した出張展示である。展示企画を県立農業科学館が担当し、県立博物館、県立近代美術館、県立美術館が資料貸出等で協力した。当館はその他に、展示作業と撤収、工作技師による展示台作成、民俗部門職員によるワークショップ開催等も行った。

博物館等へ出向くことが困難な福祉施設利用者を対象として企画された出張展示であり、主な展示資料は昭和30～40年代の農村風景写真や懐かしい民具・農具等であった。また、通常よりも低めの展示台を準備することで、車椅子に乗った観覧者への配慮も心がけた。

▶ 展示室の保守管理状況

温湿度計による24時間の環境測定・記録、捕虫トラップを用いた生物被害の予察、および展示照明の保守点検を行い、資料の劣化抑制に努めるとともに、設備の不具

合に対しては随時対応した。また、I P M委員による自然展示室の環境点検を実施した。

▶ 解説案内サービス業務

令和6年度から解説員の業務内容と働き方を見直し、令和7年度もその方向で業務を進めた。あわせて、解説員研修、企画展研修、月例報告、一般団体対応、情報収

集、Q & A作成といった従来の業務も行った。また、解説員が日ごろ研究や実践をしていることを発表する機会も設けた。

▶ 分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を令和7年4月1日から令和8年3月31日まで公開した。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開した。学校団体の利用も小学校3年生を中心に多く、学芸職員ならびに解説員が解説を

行った。

令和7年度から耐震診断を実施している。令和7年度は構造調査ならびに地盤調査を行い、中間報告書を提出した。来年度は報告書の作成を予定している。

4 教育普及活動

館内講座については、特に博物館教室で回数・参加人数ともに前年度よりも若干増加している。その一方で、ミュージアムトークは前年度に引き続き実施回数が伸び悩んでおり、企画展を中心に展示解説の実施を定着させたいところである。あきた県庁出前講座などの館外講座は、回数・参加人数ともに前年度よりも減少している。

イベントでは、開館50周年記念式典の当日に講演会が開催され、来賓・招待者・旧職員等が多数参加した。

令和7年度は他施設との連携事業が相次いで実施され

た一年であった。東北地区博物館実務担当者会議では当館が幹事館を務め、会議と秋田市内の視察（巡検）を計画・実施した。さらに県立博物館施設4館連携事業である「みんなのMuseumプロジェクト」にも参加し、他館と協力しながら関連事業に取り組んだ。また、秋田県博物館等連絡協議会（秋博教）では、燻蒸消毒サービスの受け入れが6月になったという事情もあり、例年は他館で行っている総会を令和7年度は当館で開催した。

「友の会」と「アイリスの会」は、ボランティア活動

等に継続的に取り組んでいる。9月に行われた開館50周年記念式典では、両会の長年にわたる貢献に対し、博物

館から感謝状を贈呈した。

普及事業

◇館内講座

平成30年度より、博物館教室をはじめ館内で行われる普及活動全般について、普及・広報チームが取りまとめて把握する形としている。内訳は以下のとおり。

①博物館教室	86回	965名
②イベント等	3回	401名
③展示付帯事業等	1回	132名
④ミュージアムトーク	4回	56名

①博物館教室の内訳は別表のとおり。参加者の応募がなく開催中止となった講座があったものの、実施回数・参加人数ともに前年度より若干増加している。②イベント等では、開館50周年記念式典に際して講演会を開催した。③展示付帯事業は、「昭和のアキタ」の期間中に開催した「昭和を奏でる」の1件のみであったが、当日はダースコちんどん隊のパフォーマンスを多くの来館者が見学した。④ミュージアムトークは、令和6年度と同様にあまり実施できなかった。

	教室名	回数	人数
1	化石と地層の観察会	2	40
2	簡単！葉っぱの標本づくり	1	7
3	昆虫教室～採集と標本づくり～	2	41
4	鉱物標本の製作（入門編）	1	7
5	鉱物標本の製作（応用編）	1	5
6	「真澄に学ぶ教室」 講読会～県外の日記を読む～	20	220
7	貝輪をつくる	1	15
8	初級者向け 秋田の中世史教室	2	24
9	初級編 秋田の縄文を学ぶ	1	9
10	初級編 縄文の暮らし（衣食）	1	16
11	My Jomon Cup	3	29
12	三浦館・旧奈良家住宅の見学会		
13	60年前の秋田―モノや写真で思い出を語り合う会―	2	10
14	初めての古文書解説	5	39
15	久保田城「絵図歩き」	1	15
16	「真澄に学ぶ出張教室」	1	33
17	秋田の先覚を知る		
18	民俗学入門講座	2	18
19	箒をつくる	3	30
20	綿を紡ぐ	14	99
21	からむしを績む	3	10
22	秋田の絞り染め（藍染め）	8	103
23	木工芸 木のオブジェづくり	1	12
24	絵本制作「博物館歳時記」秋の章	3	31
25	ゼロからはじめるワラ仕事	3	29
26	木工芸 Christmas Ornament	1	11
27	こだしを編む	2	19
28	秋田の先覚記念室講演会	1	38
29	「真澄に学ぶ教室」講演会	1	55
	合計	86	965

※ 斜線は中止となった教室

◇イベント等

・『軒の山吹』再現 4月26日(土)～30日(水) 分館
博物館ボランティア「アイリスの会」会員の協力のもと、江戸時代の紀行家菅江真澄の図絵『軒の山吹』に描かれた行事を分館旧奈良家住宅に再現した。前年同様に開花が早かったことから、例年よりも早い日程で開催した。休館日を除く4日間で延べ149名の来館者に観覧いただいた



『軒の山吹』再現

・秋田県立博物館開館50周年記念講演会
9月28日(日) 1階講堂
千葉市美術館館長で公益財団法人日本博物館協会会長も務められている山梨絵美子氏を講師としてお迎えし、「いま、博物館に求められること」をテーマにご講演いただいた。来賓・招待者・旧職員などから合わせて約70名が出席した。



開館50周年記念講演会

・ミュージアムコンサート

「早川泰子の“JAZZで巡る世界の旅” Vol.4」

3月20日(金・祝) 2階ロビー

普段はロビーに展示している進駐軍秋田キャンプ地で使用されていたピアノの生の音色と、ピアノが使用されていた当時の雰囲気を味わうジャズコンサートを開催した。今回はピアノとギターによる演奏を182名の参加者に楽しんでもらった。



ミュージアムコンサート

◇ミュージアムトーク

前年度と同様、令和7年度も企画展等における展示解説会の実施回数が少なく、年間を通じて4回、56名で

あった。ちなみに、うち1回は県教委と秋田市文化振興課主催によるもの(みるかねっとギャラリートーク)である。次年度は、もう少し実施回数を増やせるように展示担当者への働きかけも行い、事前広報を進めていきたい。また、常設展示や可変展示の解説会なども検討していきたい。

◇館外講座

秋田県生涯学習推進本部が主催する「あきた県庁出前講座」を含めて館外で行われる普及活動を、普及・広報チームが取りまとめて把握している(出前授業を除く)。令和7年度は全体で25回実施され、受講者の延べ人数は743名であった(前年度 29回 1,152名)。前年度に比べ各種講座とも講座数および参加数ともに減少となった。

①出前講座	9回	235名(前年度 10回 276名)
②出張講座	16回	508名(前年度 18回 702名)
③連携講座	0回	0名(前年度 0回 174名)
④その他	0回	0名(前年度 0回 0名)

なお、①あきた県庁出前講座の内訳は次のとおり。

・博物館資料から考える秋田の原始・古代	1回
・秋田のくらし・行事	4回
・秋田のわざ	3回
・秋田の生きもの	0回
・秋田の鉱山	1回

他施設・他団体との連携

◇秋田県博物館等連絡協議会(略称：秋博協)

(1) 総会 6月19日(木)

令和7年度は役員会を书面開催とし、総会を6月19日に当館で開催した。参加館は16館21名。令和6年度作成したリーフレットは、広報媒体として優れているため、今後、継続的に増刷する方向で検討することとした。また、協議会の理事の人数について、協議会の規模の割には多いため、任期の切れる7年度末を契機に減らす方向で検討することとした。

(2) 実務担当者研修会 2月20日(木)

会場：秋田県立博物館講堂

講師：岩田 泰幸 氏(公益財団法人 文化財虫菌害研究所 研究員)

内容：「文化財IPMに基づく生物被害対策の再考と手法の選択について」

研修会では文化財用燻蒸剤の動向を踏まえた上で、

今後の殺虫・殺菌処理の選択肢や、虫とカビの対策を切り分けて考える重要性など、実務に直結する専門的な知見を分かりやすくご提示いただいた。参加館は13館19名で、不参加の施設には後日、資料を郵送で送付した。

(3) 燻蒸消毒サービス 6月23日(月)～30日(月)

鹿角市先人顕彰館、潟上市郷土文化保存伝習館、男鹿市若美ふるさと資料館、秋田市立佐竹史料館、秋田市立千秋美術館、本荘郷土資料館、にかほ市仁賀保勤労青少年ホーム、由利本荘市矢島郷土文化保存伝承施設、美郷町学友館、花火伝統文化継承資料館はなび・アム、羽後町歴史民俗資料館の11館が利用した。

(4) 秋博協ホームページ

「あきたミュージアムポータル」を継続して運営し、参加館に情報の更新を呼びかけた。

加盟館数：52館(令和8年3月31日現在)

◇博物館「友の会」

- (1) 総会 4月27日(日) 参加者9名
- (2) 役員会 4月27日(日)、12月7日(日)、
3月8日(日)
- (3) 企画展展示研修 4月27日(日) 参加者5名
10月5日(日) 参加者4名
- (4) 県内研修
 - ・矢島歴史探訪と桑の木台湿原散策
5月31日(土)～6月1日(日) 参加者12名
 - ・秋田県公文書館と鉱業博物館のバックヤードをめぐる
10月23日(木) 参加者15名
- (5) 各ボランティアによる活動
 - ・古文書整理ボランティア(3名) 第二・四水曜日
 - ・秋田古文書同好会(17名) 第三金曜日
 - ・植物標本ボランティア(10名) 毎週火曜日
 - ・考古ボランティア(10名) 隔週日曜日
 - ・地質ボランティア(2名) 各自毎週水・木曜日
- (6) 友の会だより
 - ・第56号(9月刊行、A4版両面カラー、150部)
 - ・第57号(3月刊行、A3判二折両面カラー、150部)
- (7) 印刷物等配布 4回
6月20日、9月4日、12月18日、3月31日
会員数：102名(令和8年3月31日現在)

◇博物館ボランティア「アイリスの会」

博物館ボランティア「アイリスの会」は、お話・織・図書・藁・藍の5チーム編成で活動に取り組んでいる。

お話チームは、4月を除いて月1回わくわくたんけん室で「おはなし会」を開催した。

織チームは、5月から11月までの月1回わくわくたんけん室で「裂織体験」を実施した。また、3月にはわくわくたんけん室でイベント「楽しい手織り ストラップをつくろう」も開催した。

図書チームは、8月を除いて月1回の図書資料の整理(考古図書も含む)と年2回の会員通信「時計」の編集・発行を行った。

藁チームは、ワラ細工の製作技術研修を月1回実施し、博物館教室「ゼロからはじめるワラ仕事」で支援を行った。また、1月にはわくわくたんけん室でイベント「干支のワラウマづくり」も開催した。

藍チームは、絞り染めの製作技術研修を4月から12月まで月1回実施し、学校団体による藍の絞り染め体験の支援や博物館教室「秋田の絞り染め」の支援を行った。また、開館50周年記念式典用記念品の藍絞り染めハンカ

チを製作した。

全体の活動として、博物館イベント『軒の山吹』再現のヤマブキ採取や特別展のポスター折り作業に協力した。また、夏休み期間中の土日にわくわくたんけん室の活動を補助した。

会員数：38名(令和8年3月31日現在)

◇その他団体(みるかネットなど)

・秋田市内文化施設連絡会議(通称みるかネット)

秋田市内に設立されている県立および秋田市立の博物館、美術館、資料館の連携組織で当館も加盟している。国際博物館の日にちなんで各館同一日に開催するギャラリートークセッションが5月18日(日)に実施され、当館では企画展「昭和のアキター百年のくらしをつづる」の展示解説を行った(参加者24名)。また、同会議によるイベント通信を年2回(5月と10月)発行し、館内に設置した。

・東北地区博物館実務担当者会議

令和7年度は当館が幹事館(事務局)を務め、11月13日(木)～14日(金)の日程で会議と視察を実施した。13日(木)は当館で会議を開催し、4件の協議事項を中心に活発な意見交換が行われた。他県からの参加者数は、現地参加が9名、オンライン参加が4名であった。14日(金)には、秋田市立赤れんが郷土館をはじめとする秋田市内の博物館施設を、参加者各自が視察した。

・みんなのMuseumプロジェクト

県立の博物館、美術館4施設が連携し、様々な地域課題の解決に取り組むことを目的として令和7年度から実施された。当館では今年度のプロジェクトの一環として、主に次のような事業に取り組んだ。

①みんなのMuseumプロジェクト企画展「まるごと〇(まる)展」への協力

9月13日(土)～11月9日(日)に県立近代美術館で開催された企画展にあたり、展示資料の提案と貸出を行った。

②ミュージアム連携出張展「昔のくらしと道具」への協力

県立農業科学館の企画により、10月10日(金)～30日(木)に南部老人福祉総合エリア(横手市)で連携出張展が開催された。当館職員は、展示台の製作、資料貸出、展示・撤収作業、ワークショップ実施などの協力を行った。

③鑑賞支援ツールの構築（資料レプリカの製作）

県産業技術センターの協力を得て、館蔵資料である「人面付環状注口土器」（重要文化財）のレプリカを

製作した。令和8年度にはこのレプリカを用いて、視覚障害者を対象とした鑑賞プログラムを実施する予定となっている。

博物館における実習・研修

◇博物館実習

令和7年度の博物館実務実習は、9月3日(水)から5日(金)、9日(火)から11日(木)までの6日間実施した。秋田公立美術大学、札幌大学、石巻専修大学、盛岡大学、東北生活文化大学、聖心女子大学、日本大学の7大学8名の学生から申し込みがあった。

実習は講義形式で博物館について学ぶものと、博物館実務について体験形式で学ぶものと2つに分け、それぞれ各部門の学芸職員が指導に当たった。また、特別展の撤収作業見学や学校への対応（セカンドスクール）などの大学では学ぶことの少ない、より実践的な業務についても体験してもらった。

◇中堅教諭等資質向上研修

8月7日～8日の日程で、金足農業高等学校、大館国際情報学院中学校、能代市立第二中学校、秋田市立広面

小学校の教諭4名を受け入れた。

研修内容は、1日目は「教員のための博物館の日」に参加して、各展示室及び分館の見学、模擬出前授業などの体験活動を行った。2日目は各部門の業務体験・研修等を行った。

博物館での研修で得られた経験が、今後の職場で活かされることを願っている。

◇各種視察研修対応

大学等各種団体の視察・研修について、全体で6回、132名を受け入れた。

秋田看護学校	5月9日	36名	
秋田県立大学	5月10日	50名、7月24日	43名、
	8月20日	28名	
秋田公立美術大学	9月10日	30名、10月4日	8名

博物館活動の記録・整理

◇博物館活動の記録・整理

マスメディアで紹介された博物館活動については、一覧を作成して記録するとともに主管課である生涯学習課と情報を共有している。令和7年4月から令和8年3月までの一年間で当館の活動に関する新聞や雑誌等の記事は49件掲載され、県内外に広く伝えられた。掲載記事は記録集にまとめ、館職員が常時利用できるようにするとともに、年2回行われる博物館協議会の資料とした。

◇レファレンス

博物館では、所蔵する資料や秋田の文化・自然などに関する質問を受けている。令和7年度の県内外からの各部門等に対しての問い合わせ件数は次のとおりである。考古16件、歴史15件、民俗9件、工芸5件、生物40件、地質10件、真澄7件、先覚7件、その他14件

5 広報出版活動

特別展・企画展に関するポスターやフライヤーについては、展示内容に合わせてより効果的な広報先を検討し、関連団体等に重点的に配布した。また、プレスリリースにより各報道機関への情報提供に努めた。

SNSについては、魅力的なコンテンツの迅速な情報提供に留意した。令和7年度は月あたり4～5件程度を目標に投稿することを心がけた。

ホームページについては、令和5年2月の大幅リニューアル以降、アクセス数を伸ばしてきた。令和7年度は、特別展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」の会期中にアクセス数が大幅に増加した。

館内における広報については、1階、2階の各受付に設置しているデジタルサイネージにより、来館者にわかりやすく情報を伝えることができた。

広報活動

◇広報計画の策定と実施

広報は、特別展・企画展の開催および燻蒸消毒に伴う休館の周知に合わせて、年5回の定期発送の計画を策定した。この定期発送では、各展示のポスター・フライヤーのほか、当館が発行した広報誌やイベント情報等の印刷物を、県内の学校・図書館・公民館などの公共施設や、道の駅などの観光施設、また県内外の博物館などにも発送し、掲示を依頼した。

また、定期発送は展示の情報が事前に周知されるよう、展示開始の1か月前を目処に発送時期を設定した。ポスター等の納期に合わせた準備や各担当者からの協力もあり、概ね予定通りの発送を行うことができた。

◇その他の広報活動の実施と改善

令和7年度は例年通り、特別展・企画展の開催前には各報道機関が所属する県庁記者クラブに教育庁総務課を通じてプレスリリースを行い、情報の周知を図ることができた。またその他、ミュージアムコンサートの開催についてもプレスリリースを行った。

広報の甲斐あってか、特別展・企画展及び各イベントでは、各報道機関から取材があり、テレビや新聞等で紹介してもらうことができた。また秋田県教育委員会の広報誌「教育あきた」、秋田県広報紙「あきたびじょん」、秋田県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」等への掲載も行った。

今後も多くの県民に興味・関心をもっていただけるよう、多様な広報の在り方について検討していきたい。

出版物の刊行・配布

◇展示ポスター

企画展「昭和のアキター百年の暮らしをつづる」	B 2判	1,200部
特別展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」	B 2判	1,200部
企画展「かく、えがく。ー菅江真澄遺墨資料展ー」	B 2判	1,200部
企画展「秋田県博50年のあゆみ」	B 2判	1,200部

◇展示広報フライヤー

企画展「昭和のアキター百年の暮らしをつづる」	A 4判	20,000部
特別展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」	A 4判	35,000部
企画展「かく、えがく。ー菅江真澄遺墨資料展ー」	A 4判	20,000部
企画展「秋田県博50年のあゆみ」	A 4判	20,000部

◇展示解説資料

企画展「かく、えがく。ー菅江真澄遺墨資料展ー」	A 4判	8頁	1,000部
秋田の先覚記念室企画コーナー展「秋田の酒と人」	A 4判	8頁	1,000部

◇広報誌

博物館ニュースNo.181・182	A 4判	8頁	各2,300部
広報紙「真澄」No.43	A 4判	8頁	1,000部

◇報告書等

年報 令和7年度	A 4判	47頁	800部
秋田県立博物館研究報告第51号	A 4判	71頁	500部
真澄研究第30号	A 5判	106頁	400部

インターネット利用

令和7年度のホームページアクセス数は約12万4千回（前年度比約2万3千回増）であった。前年度に引き続き、年間アクセス数の最高値を更新することとなった。アクセス数増加については、夏の特別展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」の影響が非常に大きく、特別展会期中のアクセス数は前年度と比べて倍近くになっている。その一方、特別展終了後のアクセス数は前年度と比べて

やや減少した。SNSの投稿記事とリンクさせるなど、活用の工夫が今後求められるところである。

SNSについては、フェイスブックとInstagramを利用している。企画展、特別展、博物館教室、イベント等の告知・報告だけでなく、館周辺の季節の移り変わりや職員の作業風景の紹介等、多彩な記事を投稿することを試みた。

6 学習振興活動

学習振興チームは、体験型展示室の運営と学校団体の受け入れが活動の中心となっている。

体験型展示室のわくわくたんけん室は、アイテムの見直しやデジタルサイネージの追加などを行った。またミニ展示コーナーでは新たに考古部門の「縄文土器あれこれ」を実施した。休日イベントは職員や非常勤職員の他、アイリスの方に協力いただいたり、専門の工人の指導によるイベントを実施したりし、定員を上回る申込みにな

るイベントもあり、好評をいただいた。

学校団体の受け入れについては、年間を通して中止することなく実施した。令和7年度から学校団体の申込みフォームをHP上に公開し、現在試行中である。また中学校職場体験や高校生インターンシップ・ボランティア活動については中学校や高校からの要望に応えながら実施した。

わくわくたんけん室の運営

◇一般及び団体利用への支援・指導

令和7年度も開室時間を以下のとおりとした。

開室時間：平日・休日とも

午前 9:30～12:00

午後 1:00～ 4:00（4月1日～10月31日）

1:00～ 3:30（11月1日～3月31日）

令和7年度は特に特別展開催時のわくわくたんけん室の利用が多く、休日イベントを実施する日には特に利用者が多かった。



わくわくたんけん室の様子

◇室内展示

わくわくたんけん室内には接触体験型を含めた展示コーナー(自然科学、考古、学芸員の仕事、民俗、工芸)が設置されている。キャプションのデザインを色分けして、順次展示を入れ替えながら、各展示室とリンクする魅力あるわくわくたんけん室の再編を目指している。令和7年度民俗部門は企画展「昭和のアキタ」の併設展として「昭和のおもちゃ」展を開催した。工芸部門はわく

わくたんけん室のスペシャルプログラムで実施した鯉のぼりのオブジェづくり、博物館教室で実施している木工芸の内容を紹介した。考古部門は「縄文土器あれこれ」と題して土器の紹介と体験プログラムを実施中である。

これまで体験教具を入れていた宝箱は重く中身が見えず親しみにくい難点を指摘されていたので、教具を蓋無しの小さなコンテナボックスや半透明のコンテナボックスに入れて可視化し、すぐ手に取れるようにした。これにより入室者が気軽に体験できるようになった。令和7年度は秋田県の市町村パズル「どれだけ知ってる秋田県」が追加された。

展示室入り口近くにデルビル磁石式壁掛電話機を新たに設置した。ハンドルを回すとベルが鳴るので多くの来場者が足を止める。ただ通話機を逆さにもどすことが多いのでキャプションの掲示を検討している。

◇体験アイテムの実際

わくわくたんけん室は毎日提供できるデイリープログラム、土日祝日に実施するスペシャルプログラムの二本立てで実施してきた。令和5年度に試行したものに少しずつ新しいメニューを加えている。

デイリープログラムは来室者の需要が相応にあるものの、折り紙、塗り絵、紙工作のメニューについて改善、内容の再検討が必要である。わくわくたんけん室で実施した博物館教室「絵本をつくろう」やスペシャルプログラムの「絵手紙」「昆虫スケッチ」のサンプルを利用して新たな塗り絵ポストカードを制作したがまだまだ不十分だった。民俗部門の接触体験型展示「昔の道具」は実体験となる石臼、薬研が好評である。

スペシャルプログラムは今年度こけし絵付け（外部講師）、樺細工（外部講師）、葉っぱプリント、昆虫ス

ケッチなどを継続した。

季節感のあるアイロンビーズ体験を月2回程度実施している。館員のデザインは参加者には好評で、新作が追加されている。

◇休日イベント

スペシャルプログラムとして、職員の専門分野や得意分野を活かしたイベントを開催した。秋田の文化・自然に関する工作を、解説を交えて行い、参加者が展示資料や郷土への関心を高め理解を深められるよう努めた。新規企画として、県産樹木の端材を使った鯉のぼりのオブジェや県産羊毛を用いた羊のマスコット作りを実施した。毎月開催のアイロンビーズ制作では、父の日や七夕、竿燈、干支の午のほか、企画展と連動して昭和のモノや菅江真澄をモチーフに加えるなど、内容の充実を図った。

樺細工や木地山こけしの絵付けなどの伝統工芸品や民芸品の制作体験を、県内の工人を外部講師として招いて開催した。これらのイベントを夏休み期間に実施することで、帰省客を含む多くの来館者に対して秋田の伝統工芸や技に関心を持ってもらう機会をつくった。

ボランティア「アイリスの会」の協力により、毎月のお話し会や裂き織り体験（5月～11月）を行うとともに、ワラウマ作りや手織りストラップ作りの体験イベントを

実施し、秋田の手仕事に挑戦する場を提供した。

以上のような多彩な内容のイベントを展開したことで、幅広い年齢層の方に参加していただくことができた。

◇出張わくわくたんけん室

例年アルヴェの「きらめきdeサイエンス」事業にブースを出してほしいと依頼が来ている。令和7年度は、わくわくたんけん室で行っているコマ作りにベンハムのコマのオプションをつけて行うことにした。そして「ベンハムのコマで色がついて見えるわけ」の資料を作成し、関心を持った来場者に読んでもらうこととした。他に紐で回すコマと逆立ちゴマを回す体験も入れてみた。

・7月13日(日)会場：アルヴェ 職員2名派遣

＜ベンハムのコマ作り・コマ回し体験＞参加者51名

自然科学学習館主催のマジックショーや風力発電の説明など、時間の決まったイベントがあったため、イベント開催時間にはまったく人が集まらず、合間にコマ作り体験などを行う人が多かった。

・10月12日(日)会場：アルヴェ 職員2名派遣

＜ベンハムのコマ作り・コマ回し体験＞参加者80名

大きなイベントはなかったため、イベント開催中は常に人がいる状況であった。

学校団体による博物館利用の支援

◇セカンドスクールの利用

前年度から学校団体のセカンドスクールの利用の対応について、あらかじめ前月に担当職員と解説員間で打ち合わせを行うようになり、情報伝達や各種調整がスムーズになった。

令和7年度は新たに業務の簡易化のため、従来の電話による申し込みに加え、オンライン上のフォームからの申し込みを可能とした。現在のところフォーム利用は数件に過ぎないが、活用いただけるよう周知を図りたい。

利用統計については、トータルの利用人数は前年度と同程度だが、学校団体数は減少している。児童生徒数、及び統廃合による学校団体数の減少の影響が続いている。加えて、学校から博物館まで児童生徒を運ぶ交通手段の確保が難しくなっているという話を伺っており、学校や自治体の交通費等の予算緊縮も利用減に影響していると思われる。校種では小学校、高等学校の利用が減少、幼保、特別支援学校の利用が増加しており、授業のテーマに即した内容より、施設体験を目的とした利用がやや多くなっているという印象である。限られた時間の

中でも博物館という施設の意義、学ぶことの面白さがより伝わるよう、内容や見せ方、解説等の工夫を心掛けていきたい。

	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
	学校数	利用人数	学校数	利用人数	学校数	利用人数
幼稚園・保育所 認定こども園	19	465	16	597	23	706
小学校	48	2,442	56	2,442	60	2,787
中学校	19	757	18	675	13	513
高等学校	9	312	13	353	12	378
特別支援学校	10	196	8	102	4	50
その他	0	0	0	0	0	0
合計	105	4,172	111	4,169	112	4,434

◇出前授業

令和7年度は小学校ならびに中学校、7校8件の出前授業を実施した。考古・民俗・工芸・地質部門の職員が授業を行い、部門の授業だけでなく、博物館の仕事を紹介する授業の要望もあった。

◇高校生インターンシップ・中学生職場体験

- ・インターンシップ：36名（令和6年度30名）
 - 高校2年生……秋田令和・3名3日間
 - 金足農業・3名3日間
 - 秋田商業・3名3日間
 - 男鹿工業・3名3日間
- ・職場体験：4名（令和6年度16名）
 - 中学2年生……城東・2名2日間

令和7年度は、7月から11月までインターンシップ及び職場体験が行われた。例年、暑い時期は食中毒・熱中症対策を行ってきたが、秋は熊出没もあり生徒の安全対策を学校側と協議し、駅から徒歩で来館する生徒はタクシーを使用することになった。次年度も熊出没が令和7年度同様ならば、受入時に安全対策について学校側に考えてもらう必要がある。体験の主な業務は、生物・民俗・考古の各部門の作業補助、わくわくたんけん室の作業・接客補助やイベントの準備補助などである。生徒は、真面目に活動を行い、「働く」とはどのようなことかを自分なりにつかむことができたようである。

◇教員のための博物館の日 8月7日（木）
参加者17名（前年度参加者25名）

ー内訳ー

- 通常申込6名（高3、特別支援1、その他2）
- 中堅教諭等資質向上研修4名（小1、中2、高1）
- 総合教育センター7名（研修員1、指導主事6）

教員のための博物館の日は、教員を対象として、博物館が持つ情報資源や提供できるサービスを紹介し、学校の授業や学習活動への活用を図ることを目的としている。そのため、参加者には先ず博物館のことを知ってもらうことに重点を置いた内容を心掛けた。最初にセカンドスクールの利用というサービスの概要について説明を行った。その後、各部門の学芸員による解説付きの展示室見学、及び自由見学を行った。特に分館・旧奈良家住宅に深い関心が寄せられた。模擬出前授業では、実際に学芸職員が学校で行う授業のデモを体験していただいた。最後に、各種標本、土器等の発掘品、昔の道具、秋田の工芸品など、授業の補助となる貸出可能資料の紹介を行った。参加者アンケートでは、授業に博物館利用を取り入れたいという回答が多く、概ね好評が得られた。

7 館外活動

◇執筆（著書・論文など、『研究報告』第51号は除く）

- ・鈴木秀一
「秋田の先人名鑑」（フリーペーパー『マリ・マリ』）
（令和7年4月4日号から令和8年3月6日号まで）

◇講演・講座など

- ・新堀道生
「秋田を知る（歴史）」（秋田看護学校）
「やさしい古文書講座」（にかほ市教育委員会）
- ・丸谷仁美
「秋田を知る（秋田の郷土食）」（秋田看護学校）
- ・深浦真人
「生涯学習とボランティア」（鳥海山木のおもちゃ館）
- ・藤中由美
「秋田を知る（秋田の自然環境）」（秋田看護学校）

- ・斉藤洋子
「素材と技術から地域をよむ―秋田編組品の構造的理解―」（国立民族学博物館共同研究会）
「オニグルミの樹皮によるストラップ作り」（大館おしゃべりの会）
- ・鈴木秀一
「秋田を知る（秋田の先人）」（秋田看護学校）
「あきたを変えた女性たち」（アトリオン6階ハーモニープラザ）
- ・角崎 大
「図絵で辿る《男鹿の秋風》、《男鹿の春風》」（男鹿市菅江真澄研究会）
「真澄の記録した自然」（旭水会男鹿支部）
「菅江真澄遺墨資料について」（菅江真澄研究会）

◇委員委嘱

- ・藤原尚彦
大潟村干拓博物館協議会委員
- ・新堀道生
秋田県教育委員会文化財保存調査事業調査委員
由利本荘市文化財保護審議会委員

・丸谷仁美

- 能代市文化財保護審議会委員
- 横手市文化財保護審議会委員
- 湯沢市文化財保護審議会委員
- 湯沢市文化財保存活用地域計画協議会委員
- 八戸地方えんぶり調査委員会調査員
- 日本民俗学会評議員

8 令和7年度のあゆみ

◇防災訓練 5月21日(水)、10月8日(水)
本館及び分館において地震発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。(臨時訓練10月8日は本館のみ)

◇第1回秋田県立博物館協議会 8月1日(金)
令和7年度事業の計画を報告した。「開館50周年後の博物館のあり方について」を協議題として、これからの博物館に求められる多様化・高度化した役割・機能について意見交換を行った。

◇開館50周年記念事業 9月28日(日)
開館50周年を記念して式典・講演会・祝賀会を実施した。鈴木健太知事、安田浩幸教育長より祝辞をいただき、日本博物館協会会長である山梨絵美子氏(秋田市出身)にご講演いただいた。

◇年度内総入場者数の10万人突破 12月11日(木)
特別展の効果もあり、年度内の入場者数がこの日、7年ぶりに10万人を突破した。なお、令和8年3月末日では、総入場者数は108,802人となっている。

◇応急手当講習会 1月15日(木)
消防本部より救急救命士を講師に招き、心肺蘇生法の手順とAEDの操作方法の講習会を実施した。

◇文化財防火デー防災訓練 1月21日(水)
1月26日の文化財防火デーに因み、重要文化財である旧奈良家住宅(分館)において、火災発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。

◇第2回秋田県立博物館協議会 2月13日(金)
令和7年度事業の経過及び令和8年度事業の計画案を報告した。「賑わいの創出のためにできることは何か」をテーマに協議を行い、各委員から多くの意見が出された。その他、令和7年度あきたMuseum機能強化事業についての評価も行った。



資

料

I 収蔵資料の概要

収蔵資料総数 (令和8年4月1日現在)

総集	美術	工芸	歴史	考古	民俗	生物	地質	先覚	真澄	計
3,787	450	13,844	9,837	2,648	11,406	128,047	18,220	5,817	2,399	196,455

文化財指定物件一覧 (館蔵資料)

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第6号	紙本着色 秋田風俗絵巻	1巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財 (絵画)
県	工芸	工芸第34号	鐔 壇溪図	1枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第41号	刀 銘出羽住忠秀刻印	1口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第54号	短刀 銘天野藤原高真作 元治元年吉日	1口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第60号	刀 銘天野河内助藤原高真 慶応二丙寅八月吉日 応三森 光茂需作之	1口	昭和48. 6.16	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第64号	魚藻文沈金手箱	1合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第66号	鐔 (あやめ図透彫) 銘 出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	1枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第67号	刀 銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	1口	平成 4.4.10	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第69号	秋田家資料 (刀剣類ほか)	1括	平成11. 3.12	県指定有形文化財 (工芸)
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保 字狐森出土	1口	昭和53. 6.15	重要文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 (枯草坂古墳出土)	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器 (沢田遺跡出土)	1点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品 (青磁碗他)	1括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財 (考古資料)
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内 字上掬出土	4箇	昭和63. 6. 6	重要文化財 (考古資料)
県	歴史	歴史資料第7号	久保田城下絵図	1幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	歴史資料第8号	紙本金地著色男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	書跡典籍第5号	平田篤胤竹画讃	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第6号	平田篤胤書簡	1巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第7号	平田篤胤和魂漢才	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第12号	季吟・桂葉両吟百韻	1巻	昭和60. 3.15	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第17号	手柄岡持 (朋誠堂喜三二) 自筆 作品並びに関係資料 ※江都前後赤壁	1点	平成30. 3.16	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	1棟	昭和40. 5.29	重要文化財 (建造物)
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田柚子造材之画	1点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物		田沢湖のクニマス (標本)	1点	平成20. 7.28	登録記念物

Ⅱ 歴代館長、特別展等一覧

▶ 名誉館長

新 野 直 吉	平成12年4月～令和6月1月
---------	----------------

▶ 歴代館長

佐 藤 文 夫	昭和50年5月～昭和52年3月
加賀谷 辰 雄	昭和52年4月～昭和53年3月
奈 良 修 介	昭和53年4月～昭和58年3月
畠 山 芳 郎	昭和58年4月～昭和63年12月
斉 藤 長	昭和64年1月～平成元年3月
佐 藤 巖	平成元年4月～平成3年8月
橋 本 顕 信	平成3年9月～平成4年3月
近 藤 貢太郎	平成4年4月～平成7年3月
高 橋 彰三郎	平成7年4月～平成9年3月
新 野 直 吉	平成9年4月～平成12年3月
富 樫 泰 時	平成12年4月～平成15年3月
佐々田 亨 三	平成15年4月～平成17年6月
三 浦 憲 一	平成17年6月～平成18年3月
沢 井 範 夫	平成18年4月～平成20年3月
佐々木 義 幸	平成20年4月～平成21年3月

鈴 木 幸 一	平成21年4月～平成22年3月
荒 川 恭 嗣	平成22年4月～平成23年3月
神 馬 洋	平成23年4月～平成25年3月
風 登 森 一	平成25年4月～平成27年3月
佐々木 人 美	平成27年4月～平成29年3月
山 口 多加志	平成29年4月～平成30年3月
山 田 浩 充	平成30年4月～平成31年3月
高 橋 正	平成31年4月～令和3年3月
今 川 拓	令和3年4月～令和4年3月
小 園 敦	令和4年4月～令和5年3月
伊 藤 真	令和5年4月～令和6年3月
宇佐美 行 毅	令和6年4月～令和7年3月
阿 部 雅 彦	令和7年4月～令和8年3月
藤 原 淳	令和8年4月～

▶ 特別展等一覧

昭和53年1月	地域展	伝説の里鹿角
7月	特別展	(東京国立博物館巡回展) 日本的美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年1月	地域展	鳥海山麓－山と人－
7月	特別展	日本の時代服飾
56年9月	東北展	東北の仮面
58年1月	地域展	平鹿－水とくらし－
7月	特別展	はにわ
59年5月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 －川と山のくらし－
61年7月	特別展	世界の貝
62年6月	東北展	出羽の近世大名
63年5月	特別展	神々のかたち－仮面と神像－
平成元年6月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
2年7月	特別展	日本のやきもの
3年4月	特別展	世界の昆虫
4年7月	特別展	近世美術の華
5年4月	特別展	鳥ってなあに
6年4月	特別展	北方文化のかたち
7年4月	特別展	地球を見つめる小さな眼
8年10月	特別展	ラ・ビレット －科学の遊園地－
9年11月	特別展	日本のわざと美
10年4月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年4月	特別展	おもちゃ
平成12年10月	特別展	(国立博物館美術館巡回展) 信仰と美術
16年9月	特別展	オリエント文化展

16年10月	北東北三県共同展	描かれた北東北
17年7月	特別展	いきもの図鑑 ～牧野四子吉の世界～
18年9月	特別展	熊野信仰と東北 ～名宝でたどる祈りの歴史～
19年7月	北東北三県共同展	北東北自然史博物館
20年7月	特別展	昆虫の惑星
21年4月	特別展	白岩焼
22年5月	北東北三県共同展	境界に生きた人々
23年7月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年9月	特別展	アンダー×ワンダー！ －北東北の考古学最前線－
25年7月	特別展	あきた大鉄道展
26年9月	特別展	菅江真澄、旅のまなざし
27年9月	特別展	徳川將軍家と東北
28年9月	特別展	発掘された日本列島2016
29年7月	特別展	妖怪博覧会 ～秋田にモノノケ大集合！～
30年7月	特別展	あきた大鉄道展 HE-30系
令和元年7月	特別展	1964－世界の祭典から半世紀－
3年9月	特別展	佐竹氏遺宝展 －守り継がれた大名家資料－
4年7月	特別展	大恐竜展秋田 －生命の鼓動を感じて－
5年7月	特別展	人形博覧会 －土偶からリカちゃんまで－
6年7月	特別展	世界の昆虫展 ～世界は昆虫であふれている
7年7月	特別展	ヨシタケシンスケ展かもしれない

Ⅲ 秋田県立博物館条例

（昭和50年3月12日公布
昭和50年5月1日施行
平成31年3月15日最終改正
令和元年10月1日施行）

（設置）

第1条 郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館（以下「博物館」という。）を秋田市金足嶋崎字後山52番地に設置する。

（職員）

第2条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

（博物館協議会）

第3条 博物館に秋田県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 博物館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（入場料等の徴収）

第4条 博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

2 前項の入館料の額は、別表第1に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

3 地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第2に定めるところにより使用料を徴収する。

（入館料等の減免）

第5条 知事は、特別な理由があると認めたときは、入館料又は使用料を減免することができる。

（入館料等の不還付）

第6条 既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めたときは、その一部又は全部を還付することができる。

（施行規定）

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第1（第4条関係）

入館料の上限額

区 分	金 額	
	個 人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	1人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	1人につき 320円
一 般	600円	1人につき 480円

備考：この表における「小学校児童及び中学校生徒」及び「高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生」には、それぞれこれらの者に準ずる者を含むものとする。

別表第2（第4条関係）

区 分	金 額
講 堂	1 日 11,940円
	半 日 5,970円
学 習 室	1 日 3,560円
	半 日 1,780円

IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

◎ 秋田県教育委員会行政組織規則

第26条 秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 博物館事業の企画運営に関すること。
- 二 資料の収集、保管及び展示に関すること。
- 三 資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。
- 四 資料の解説及び広報活動に関すること。

◎ 教育機関の管理及び運営に関する規則

第9章 博物館

（開館時間）

第38条 秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期 間	時 間
4月1日から10月31日まで	午前9時30分から午後4時30分まで
11月1日から3月31日まで	午前9時30分から午後4時まで

（休館日）

第39条 博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 月曜日（当該日が休日又は8月29日に当たるときは、その翌日）
- 二 年始（1月1日から1月3日まで）
- 三 年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条 講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 第11条第2項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

V 入館者に関する資料

(1) 入館者数内訳

令和6年度

総入館者数 64,044人

有料展示

世界の昆虫展～世界は昆虫であふれている

令和7年度

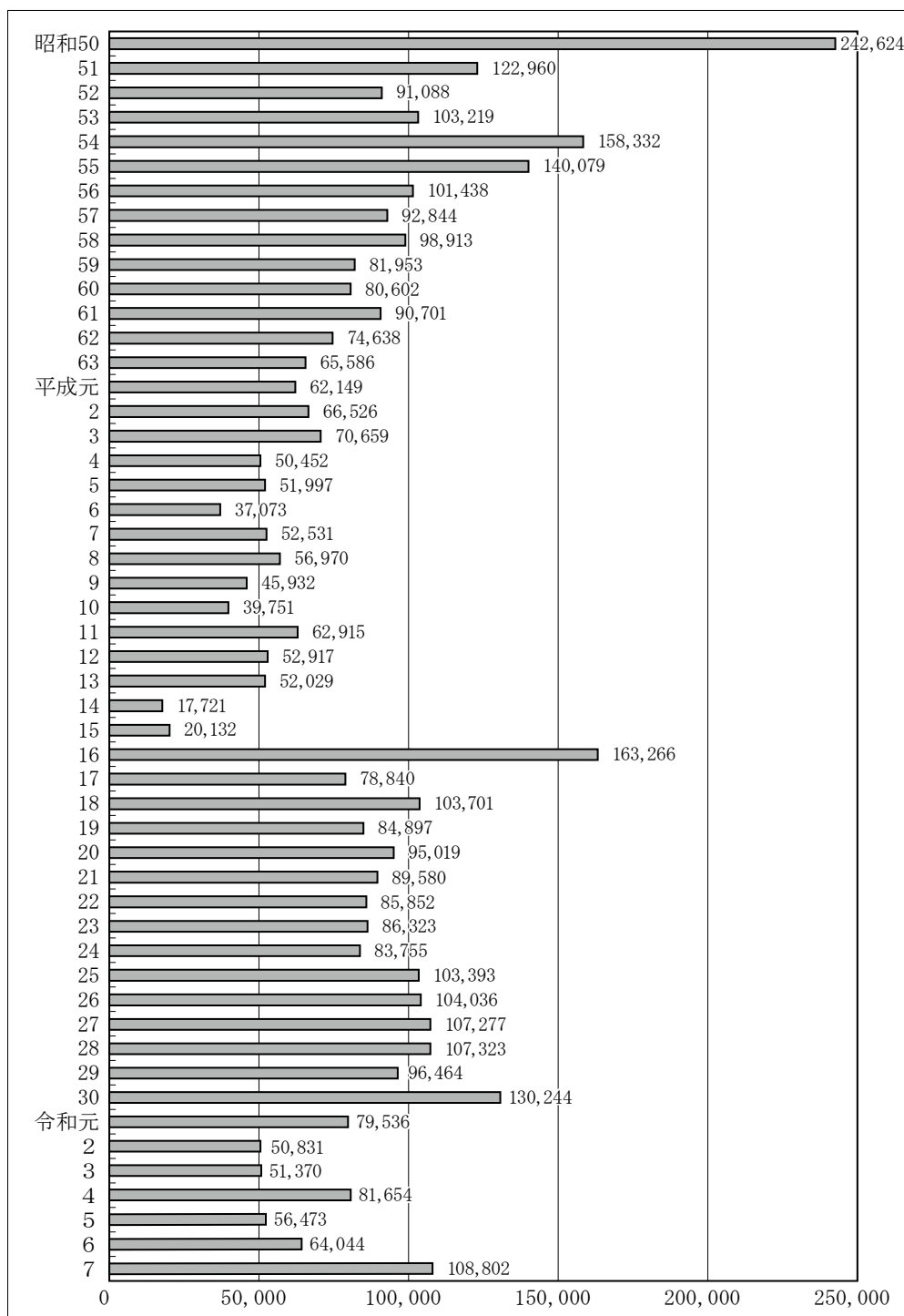
総入館者数 108,802人

有料展示

ヨシタケシンスケ展かもしれない

(2) 年度別入館者数の推移

延べ入館者数 4,297,411人（令和7年度末）



※平成14・15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

～利 用 案 内～

開 館 時 間 4月～10月 午前9時30分～午後4時30分
11月～3月 午前9時30分～午後4時

休 館 日 ・月曜日
(ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日)
・年末年始
(12月28日～1月3日)
・燻蒸消毒の期間
令和8年度は9月7日(月)～9月14日(月)

入 館 料 無料
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使 用 料

区 分		金 額
講 堂	1 日	11,940円
	半 日	5,970円
学 習 室	1 日	3,560円
	半 日	1,780円

～交 通 案 内～



本 館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分
バ ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分

車 ：秋田自動車道昭和男鹿半島 I C より
10分、秋田北 I C より15分
秋田市中心部から国道7号で約15km・30分

分 館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩30分
バ ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

秋 田 県 立 博 物 館 年 報

令和8年7月発行
〒010-0124
秋田市金足鳩崎字後山52
秋 田 県 立 博 物 館
T E L 018-873-4121
F A X 018-873-4123

